

徳山高専だより

Tokuyama College of Technology

2012年度 No.66



徳山工業高等専門学校

目次

ホームページNews & Topicsで綴る徳山高専この1年・・・	1
第38回 高専祭を終えて	12
高城寮より	14
留学生だより	16
就職・進学状況 / 就職・進学試験体験記	
本科	20
専攻科	26
卒業生だより	29
徳山高専同窓会「高城会」	32
退職者あいさつ	34
新任者紹介	36
図書館時間外開館補助員の感想	40
編集後記	

※注（本文記事中路称）

ME＝機械電気工学科 IE＝情報電子工学科 CA＝土木建築工学科

徳山高専この1年

※注 学年等は開催時

留学生のつどい開催

2012年1月14日



厳しい寒波の狭間で晴天となった1月14日、18回目となる留学生のつどいが本校の学生食堂で開催されました。この会は、留学生が日頃からお世話になっている方々をお迎えし、感謝の気持ちを表すと共に交流を図るための毎年恒例のイベントで、3月に卒業する留学生の送別会も兼ねています。本校の留学生にも多くの支援をいただいている徳山高専テクノ・アカデミアの小野会長のご挨拶に始まり、お世話になっている地域の方などから思い出のスピーチをいただいで、会は和やかに進んでいきました。また、卒業生を送る留学生が自ら作成したスライドショーやクイズ大会なども行われ、趣向をこらした演出で笑顔の絶えない温かいひと時となりました。

英語プレゼンで特別賞受賞

2012年1月28日～29日



東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された第5回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストに、機械電気工学科5年木村桂大君、機械電気工学科3年茂山丈太郎君、情報電子工学科2年松岡駿平君の3人が徳山高専チームとして参加し、素晴らしいプレゼンテーションを披露してくれました。その結果、特別賞である、全国高等専門学校英語教育学会会長賞を受賞することができました。

周南市長と徳山高専学生とのまちづくり懇談会を開催

2012年2月7日



周南市の木村市長と徳山高専学生とのまちづくり懇談会が開催されました。これは、若い学生の意見をまちづくりに活かしたいとの周南市長からの要望により行われたものです。周南まちづくりコンテスト2011で最優秀賞、優秀賞を受賞した学生や、周南市でのまちづくり研究をすすめている学生、第10回キャンパス・ベンチャー・グランプリ中国で最優秀賞を受賞した学生の計5人が受賞作品や研究についてのプレゼンテーションを行いました。その後、まちづくりについて活発な意見交換が行われ有意義な懇談会となりました。

まちなかの小さな卒研発表会を開催

2012年3月3日



徳山高専夢広場にて、第3回まちなかの小さな卒研発表会が開催されました。1年間の卒業研究・特別研究の成果を市民の方にも知っていただこうと、本科土木建築工学科5年生と専攻科環境建設工学専攻2年生の有志が主催したものです。それぞれの研究にご支援下さった方々をお招きしました。会場からは、時には厳しい指摘もありましたが、温かいコメントもあり、学生がやりがいを感じている場面もありました。ご参加下さった皆様、若い学生諸君のアイデアに耳を傾けて下さってありがとうございました。

春・旅立ち はじける笑顔 卒業式&修了式

2012年3月14日



本校第2体育館で第34回卒業式及び第16回専攻科修了式が凜とした雰囲気の中で挙行されました。本科卒業生にはモンゴルからの留学生を含む130名に卒業証書が、専攻科修了生32名に修了証書が授与されました。式場前面のスクリーンには、壇上で一人ずつ校長から証書を手渡された時のほつとした表情が映し出されました。また、「設計情報工学」プログラム修了証の授与や表彰も行われました。

式終了後、後援会の主催で行われた祝賀会では、先生方を囲んだ記念撮影などで華やかなひとときを過ごしました。

卒業生がロボット向け最新ソフトウェア技術を紹介

2012年3月23日

第3回技術カフェテリア（学生向け先端技術懇談会 情報電子工学科主催）を、本校演習室で開催しました。講師の一人として、卒業生の吉崎航さん（情報電子工学科28期生。現在、奈良先端科学技術大学院大学博士課程）をお招きしました。吉崎さんは、産業技術総合研究所でヒューマノイド（人間型）ロボットの演技指導ソフトウェア「V-Sido（ブシドー）」を研究されています。今回は、小型ロボットで人の動きを模擬する動作の実演のほか、在学時に製作したロボコン作品などの思い出や、好きな研究を続ける楽しさなどを軽妙な語り口で在校生に伝えてくださいました。また、当日は山口放送（KRY）の向田好美キャスターによるインタビューもあり、3月29日の「スクープアップやまぐち」で放映されました。



卒業記念のタイムカプセル

2012年3月30日

この3月に徳山高専を卒業した34期の卒業生たちが、卒業記念のタイムカプセルを埋めました。当日は有志が集まり、学科毎に分けられた3つのカプセルを陸上競技場東側に埋めていきました。カプセルには手紙などが入れられており、10年後（2022年）の8月に集まり掘り出す予定です。



入学おめでとう 本科・専攻科入学式

2012年4月4日



本校体育館で第39回入学式・第18回専攻科入学式が行われました。校内の桜はまだつぼみが開き始めた頃でしたが、春らしい日差しの日となりました。本科には、機械電気工学科40名、情報電子工学科40名、土木建築工学科41名、編入学生2名、マレーシアとラオスからの留学生2名が、専攻科には、機械制御工学専攻12名、情報電子工学専攻10名、環境建設工学専攻13名、合計160名が入学しました。

新入生合宿研修 in 徳地

2012年4月9日～10日

徳地青少年自然の家において、毎年恒例の新入生合宿研修が行われました。一日目のオリエンテーリングでは、春の陽気に恵まれ、班の仲間と野山を駆けめぐり、多くのポストを見つけて高得点をあげる班が例年より多く見られました。夕食後行われたクラス対抗の長縄跳びでは、全員の息が合い10回跳んだクラスもあれば、幾度もの挑戦の末、やっと1回跳べたクラスもあり、いずれも歓喜で盛り上がる良い体験となりました。二日目の野外炊飯では、班別で力を合わせて焼きそばを作り、黒いコゲさえも美味しく感じるできあがりとなりました。この二日間の研修で、緊張による堅さもほぐれ、5年間の学校生活を共に歩む友人をたくさん作る事が出来ました。



周南市とおの山山頂に展望台と東屋が完成

2012年4月7日



徳山高専に隣接するとおの山の山頂にて、展望台と東屋の完成式が行われました。

この展望台と東屋は、平成23年度初めに学校近隣の桜木地区コミュニティ推進協議会から設計・建設の依頼が徳山高専土木建築工学科にあったもので、本科5年生の森下一将君、宮川水綺さんの2名が基本設計を行いました。その後、準備期間を経て、平成24年2月から建設を開始しました。

いずれの建物も基礎部分は橋本教員が中心となって施工しました。東屋上部は本職の方に施工を依頼し、学生は作業補助、というスタイルでしたが、展望台は様々な方の協力を得ながらも、本科1年生から専攻科2年生まで、およそ20人の学生の主体的な施工で完成に漕ぎ着けました。学生・教員双方にとって大変貴重な体験の場となりました。

完成式では、木村周南市長も臨席の下、安全祈願が行われた後、井上校長に感謝状が贈られ、餅撒きが行われました。

今後は、コミュニティと協力しながら、年一回の防腐剤の塗り直しなどのメンテナンスを継続していく予定です。

スポーツの後のBBQは最高！

新入寮生歓迎マッチ

2012年4月14日



高城寮では、寮生会企画の一つとして、新たに入寮した寮生を歓迎する新入寮生歓迎マッチが開催されました。午前中は、寮生が4つのチームに分かれて、キックベース、ポートボール、リレーなどのスポーツマッチを行い、午後には屋外でバーベキューパーティーを行いました。天候にも恵まれ、スポーツで汗を流した後、和気あいあいとした雰囲気の中、おいしい焼き肉や魚介類等に全員舌鼓を打っていました。

科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞

2012年4月17日



一般科目大橋正夫教授が、平成24年度科学技術分野の文部科学大臣表彰の科学技術賞（理解増進部門）を受賞しました。業績は「みんなが手を動かす実験教室開催による科学技術の理解増進」で、4月17日に文部科学省で表彰式が行われました。

これは、10年以上にわたり、小中学生の参加者全員が実際に手を動かして実験を行う教室を、防府市の青少年科学館で毎年夏休みに行われている「おもしろサイエンスinソラール」や、出前授業、周南市の「ひと・輝きプロジェクト」などで開催し、科学技術普及活動として、我が国の科学技術の振興発展に顕著な貢献があったものと認められ表彰されたものです。

科学技術週間「放射線の科学～放射線の飛行機雲を見てみよう！～」を開催

2012年4月21日



本校において、科学技術週間に伴い、徳山高専実験教室「放射線の科学～放射線の飛行機雲を見てみよう！～」を開催しました。放射線の性質についての説明や、いろいろな実験を通して放射線について楽しく学ぶことができました。

徳山高専では、2002年より科学技術週間イベントの一環として毎年、徳山高専実験教室を開催しており今年で11回目の開催となります。

専攻科生達の祭典！

中国・四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会

2012年4月27日～28日



4月27日と28日の二日間、香川県高松市で中国・四国地区13校（14キャンパス）の専攻科生と教員が参加し、専攻科交流会が開催されました。研究発表会では学生同士の活発な質疑応答が繰り広げられ、懇親会ではそれぞれの専攻科の紹介で交流を深めました。晴天にも恵まれ思い出に残る楽しい交流会でした。

総合優勝機械電気工学科2年 新入生歓迎クラスマッチ

2012年5月9日



本校恒例行事の新入生歓迎クラスマッチが学生会主催で開催されました。当初予定日が雨天順延となった今年度のクラスマッチですが、この日は快晴に恵まれ、リレー、長縄跳び、バスケットボール、ドッジボールなど計7種目で競いました。今回のクラスマッチは後輩の頑張りが先輩の力に勝り、見事機械電気工学科2年が総合優勝を飾り、この快挙に歓声と拍手が上がりました。

自分で打ったうどんを堪能—留学生見学旅行in香川

2012年5月12日～13日



5月12日、13日に1泊2日で留学生6名、チューター4名、教職員6名で四国に留学生見学旅行に行きました。初日は柳井からフェリーで松山に渡り、昼食バイキングの後、高松に移動。栗林公園の散策を楽しんだ後、ホテルで研修をしました。2日目は金刀比羅宮の1368段もの石段を登った後、うどん学校に入学し、うどん打ちを体験しました。自分で打ったうどんはコシも強く、味も格別でした。

情報電子工学科2年生の合宿研修

2012年5月15日～16日



情報電子工学科2年生の学生が、5月15日、16日に1泊2日で、山口県岩国市由宇町にある山口県由宇青少年自然の家（通称：ふれあいパーク）で合宿研修を行いました。この研修は、今後卒業時まで共に過ごす級友との交流を通して楽しいクラス作りの意識を高めることを目的に実施されました。初日はドッジビー、卓球、バスケットボールを、2日目は陶芸（信楽焼き）を楽しみました。級友との交流を通して、楽しい研修となりました。（写真は、陶芸風景）

平原地区合同環境美化作業に参加

徳山高専学生会

2012年5月26日



平原地区合同環境美化作業が行われました。本校の通学路となっている地区の老人会「平原寿会」が主催する本活動も今年で12年目となり、本校学生会から38名と徳山大学から約180名が参加し、道路沿いのゴミ拾い・草引き、側溝の枯れ葉や砂利を取り除きました。日頃お世話になっている地域の方との交流も深まり、有意義な作業となりました。

県高校総体テニス男子シングルスで優勝

2012年6月2日～5日



6月2日～5日まで山口市の維新百年記念公園テニス場で、第63回山口県高校総合体育大会のテニス競技が開催され、男子シングルスで機械電気工学科3年の伊藤壮一郎君が見事優勝を飾りました。最終日に行われた男子シングルの決勝リーグは、前日までのトーナメントを勝ち残った4名で行われました。伊藤選手は3戦全勝で山口県大会の優勝とともに、8月に新潟県南魚沼市で開催される全国高校総合体育大会（インターハイ）への出場権を獲得しました。また、これまで中国地区の高校の大会でも常に上位の成績を残しており、6月16日から開催される中国大会でも活躍が期待されています。

なお、本校テニス部は、団体で3位、男子ダブルス（伊藤君・齋藤君（機械電気工学科2年））でも3位の成績を残しました。

土木建築工学科2年生の工場見学

2012年7月2日



土木建築工学科2年生の37名が、下関市～北九州市で工場見学（現場見学）を行いました。午前中に見学した関門トンネル人道では、全長780mの海底トンネルを歩いて往復しました。お昼は昼食を兼ねてカモンワーフに立ち寄り、その周辺にある旧秋田商会ビルなどの日本の近代建築史を代表する歴史的建築物に触れました。午後からは、新日本製鐵八幡製鐵所（北九州市戸畑区）で高炉や熱間圧延工程を見学し、熱と光に汗だくになりながらも建設分野に欠かせない鉄鋼製品の製造に関する知識を深めました。終始賑やかだった今回の見学は勉強だけでなく、クラスメイトとの交流を図る良い機会になったようです。（写真は八幡製鐵所内）

ソフトテニス 29年ぶり2度目の優勝 中国地区高専体育大会

2012年7月6日～8日



7月6日から3日間、本校を主管校として開催された第48回中国地区高専体育大会は県内3高専の会場で熱戦が繰り広げられました。

本校では、ソフトテニス団体において29年ぶり2回目の優勝を飾り全国大会への切符を手に入れました。

他にも団体ではハンドボール、サッカー、バドミントンが優勝し、個人でも陸上、柔道、水泳、剣道、テニス、バドミントンの15種目で優勝しました。中国地区で開催される全国高専体育大会には団体7競技と個人戦に出場します。

韓国の高校生が来訪

2012年7月10日



韓国の釜一電子デザイン高校の生徒ら約20名が本校を訪れました。情報電子工学科のプログラミングやコンピュータシステム実験の授業を見学したり、実習工場などの施設見学などをしました。同校は徳山大学の協定校で、日本企業や専門教育を行っている日本の学校を訪問して知見を広める目的で、7月7日から12日まで日本を訪れました。

留学生のふるさと展を開催

2012年7月14日



徳山駅ビル2階市民交流センターにおいて、留学生のふるさと展を開催しました。これは、本校で学ぶ留学生と市民の方との交流を図るためのイベントで、今年で9回目となりました。

5ヶ国6名の留学生と、7月10日から20日までの間、本校に受け入れていた米国人の学生が、母国の歴史や文化などをプレゼンテーションで紹介しました。来場された方は、遠い異国の話に熱心に耳を傾けて、留学生と市民の方との親睦が深まる有意義な会となりました。

岐阜国体テニス競技 成年の部・少年の部の出場権を得る

2012年6月～7月



第67回国民体育大会（ぎふ清流国体）テニス競技の出場権を、土木建築工学科5年寺本高史君（成年の部）、機械電気工学科3年伊藤壮一郎君（少年の部）が得ました。

国体テニス競技の山口県予選会は、6月23日・24日に宇部市で開催されました。これは、先に行われた各種予選会で優秀な成績を収めた選手のうちの数名から、更に決勝リーグで2名の出場選手を決定するものです。予選会では、両名とも1位の成績で文句なく県の代表権を得ました。成年の部についてのみ、後の中国ブロック大会の結果により中国5県から4県が国体に出場できますが、7月末に開催された大会で3位となり、山口県チームの国体出場が確定しました。なお寺本君は、昨年度も山口国体で成年の部の県代表として出場しています。同じ学校から少年の部と成年の部で同時に出場することは、高専でしか考えられない快挙です。

第1回校内見学会開催

2012年8月4日



第1回校内見学会を開催しました。暑い中、県内外から中学生、保護者等あわせて約400名の参加者がありました。参加者は、学校紹介、各学科の特色を生かした企画・体験コーナー、学生食堂体験、学寮見学等、キャンパスを自由に探検してまわり、どの企画もたくさんの中学生で賑わいました。また、今回は新たに「研究室カード」

を作成し、各企画や研究室を尋ねてきた参加者に配布し、高専教員がどのような研究に取り組んでいるかを紹介しました。

平成24年度第1回顧問会議を開催

2012年8月6日



平成24年度第1回顧問会議を開催しました。この会議は徳山高専の教育・研究活動等に対して外部の有識者からの検証を受けるために開催されたもので、9名の顧問が出席しました。平成23年度の「本校の活動状況報告及び教育点検システムの点検結果報告書」について、「本校の高度化（高度化改革検討ワーキンググループの活動報告）」について、「学生相談室の役割と今後の課題」についての説明に対し、顧問からは、様々な視点から忌憚のない提言があり、活発な意見交換が行われました。

全国高専体育大会

団体2競技、個人4競技7種目で優勝

2012年8月18日～28日

第47回全国高等専門学校体育大会が8月18日から28日まで、中国地区の各会場で開催されました。徳山高専からは、7月の中国地区大会を勝ち進んだ選手たちが、団体7競技、個人6競技29種目に出場し、熱戦を繰り広げました。

団体戦ではハンドボール、バドミントンが昨年度に続き優勝し、2連覇を果たしました。個人戦では、柔道90kg超級、剣道女子個人戦、テニス男子シングルス・男子ダブルス、バドミントン男子ダブルス・女子シングルス・女子ダブルスで優勝するなど、好成績を残しました。(写真はハンドボール部、バドミントン部)



西日本地区高専アーチェリー大会

女子団体・男女個人で優勝

2012年8月23日～24日



第21回西日本地区高等専門学校アーチェリー競技会が佐伯国際アーチェリーランド(廿日市市)で開催され、本校アーチェリー部から1～5年生部員18名が参加しました。厳しい暑さの中で集中力を研ぎ澄まし、普段の練習成果を発揮しました。

その結果、男子団体戦は惜しくも準優勝となりましたが、女子団体戦で優勝、男子個人戦優勝(土木建築工学科5年後藤晃徳君)、女子個人戦優勝(土木建築工学科3年澄岡ほのかさん)、50m競技距離賞(後藤君・澄岡さん)、30m競技距離賞(土木建築工学科5年福田友紀さん、澄岡さん)などの好戦績を挙げ、10枚の賞状を獲得しました。

県内3高専合同説明会開催

2012年8月27日



ザ・モール周南において、宇部高専・大島商船高専とともに、「集まれ!未来の創造力!」と題し、3高専合同説明会を開催しました。学校紹介DVD上映、パネル展示、巨大UFOキャッチャー操作体験、高専ロボコン出場ロボットの操縦体験等を行いました。パスタタワーを集中して作成する子供たちや、銅メッキ・光の実験教室では、説明する教員の話に興味深く聞き入る姿も見られ、幼児から大人まで約400人の来場者で賑わい大盛況となりました。

校外学校説明会開催

2012年9月1日

周南総合庁舎さくらホールにおいて、中学生・保護者・学校関係者を対象に学校説明会を開催しました。各学科の概要や卒業後の就職・進学状況等の説明の後、学科等のブースに分かれて個別相談を行い、中学生からは、高専入試問題への対策をはじめ、推薦入試の面接への心構えやクラブ活動、寮生活等たくさんの質問が寄せられました。当日は、100名を超える参加者があり終了予定時刻を超える賑わいとなりました。



専攻科インターンシップ報告会

2012年9月28日



専攻科1年生によるインターンシップ報告会が開催されました。今年は、トクヤマ、日立交通テクノロジー、日立プラントメカニクス、新立電機、兼清電子、東洋鋼鈑、笹戸建築事務所などの様々な民間企業や自治体、大学院のご協力の下、35名の学生が2ヶ月間にわたる長期の就業体験をすることができました。

報告会では、各学生が各受入先でのインターンシップでの体験を報告しました。それぞれに貴重な経験を経て、ひとまわり成長してきた姿を見せてくれました。また、報告会には受入企業から多くの方にご参集いただき、地域の方々が生徒の成長を温かく支えて下さっていることを改めて実感することができました。

周南市長を訪問 全国高専体育大会優勝報告

2012年10月2日



この夏、中国地区で開催された第47回全国高等専門学校体育大会において優勝したハンドボール部、バドミントン部、テニス部、柔道部、剣道部のうち、ぎふ清流国体に出場のテニス部を除く14名の選手と顧問教員が周南市役所を訪問しました。木村市長からは、素晴らしい成績と活躍に対する労いの言葉をいただき、選手達は来年に向けての活躍を誓っていました。

節目の通算300回目開催 「いんぐりっしゅ☆る～む」

2012年10月5日

10月5日（金）の夕方5時30分から徳山高専夢広場において、300回目の「いんぐりっしゅ☆る～む」が開催されました。この活動は、本校の学生や市民の方々に英会話の機会を提供すること及び、周南市中心商店街の活性化を目的として8年半前に始まりましたが、皆様の協力のおかげで、大きな節目を迎えることができました。今回は70名以上もの参加者に恵まれ、大きいケーキを分け合い、英会話を楽しみながらのお祝いで、会場は熱気に包まれ、大成功に終わりました。Thank you so much!



高専ロボコン2012中国地区大会準優勝 全国大会出場決定

2012年10月7日



米子市で行われた、「第25回アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2012中国地区大会（競技課題名：ベスト・ペット）」において、本校出場の徳山高専Aチーム「ロボット名：メカレオン倶楽部」が見事準優勝を飾り、11月25日に東京 両国国技館で行われる全国大会に出場が決定しました。また、Bチーム「ロボット名：TriDog」もパーフェクトゴールで勝利するなど、徳山高専の2台のロボットは、アイデアや技術的な完成度で高い評価を受けました。

全国高専プログラミングコンテスト出場

2012年10月13日～14日



全国高等専門学校第23回プログラミングコンテストが福岡県大牟田市の大牟田文化会館で行われました。今年の課題部門のテーマは「ICTでサポートする明るい少子高齢化社会」で、徳山高専からは「ロウニャクコンジャクーAR古地図システム」というタブレット端末で現在の風景と仮想現実の昔の情報を見比べることができるシステムが参加し、敢闘賞を受賞しました。また、今年の競技部門は大量のサイコロを正確に数える競技でした。徳山高専の競技部門チームは健闘しましたが惜しくも1回戦で敗退という結果でした。

JICA 青年研修事業で来訪

2012年10月15日



フィリピンの国家公務員や地方自治体の職員など約20人が10月15日に本校を訪れ、情報処理センターや電算室などの設備や、情報電子工学科の授業の見学などをしました。これは国際協力機構（JICA）事業による世界青年徳山友の会主催の研修として行われたもので、情報通信技術の施策を学ぶため、2週間の滞在中、放送局の視察や市役所などでの研修が行われました。

国体出場選手へ県教育委員会から感謝状

2012年10月



第67回国民体育大会（2012ぎふ清流国体）ハンドボール競技（少年男子）で準優勝した山口県選抜メンバーの、本校、情報電子工学科3年池岡結夢君、テニス競技（成年男子）で活躍した土木建築工学科5年寺本嵩史君、テニス競技（少年男子）で活躍した機械電気工学科3年伊藤壮一郎君に、山口県教育委員会教育長から感謝状が贈られました。（写真左から：池岡君 寺本君 伊藤君）

衛星設計コンテストで アイデア大賞・日本天文学会賞を受賞

2012年11月10日



11月10日に行われた「第20回衛星設計コンテスト」（宇宙関連8学協会主催）において、本校学生6名からなるチーム（専攻科機械制御工学専攻2年大山達也君、同1年有金聡君、森本祐平君、本科機械電気工学科5年穂吉真矢君、國次佑輔君、御手洗真人君）が応募した「月の縦孔・溶岩チューブ探査機「DIANA」」がアイデアの部の最高賞であるアイデア大賞と学協会からの賞として日本天文学会賞の2賞を受賞しました。大学生、大学院生のチームが大半を占める中、高専生のアイデア大賞受賞は5年ぶりの快挙でした。

月面上で発見された縦孔は将来の月基地の候補地として取り上げられていることから、提案したミッションは工学的な重要性や検討内容の妥当性について、審査員から非常に高い評価を受けました。

デザコン2012in小山で優秀賞（環境部門）を受賞 2012年11月10日～11日

栃木県小山市で開催された全国高等専門学校デザインコンペティション2012 in 小山（高等専門学校連合会主催）において、本校土木建築工学科3年生4名（天川大輔君、大藤昭人君、上重望さん、平山裕二君）からなるチームが応募した「豪雪地帯の家」が環境デザイン部門で優秀賞を受賞しました。環境デザイン部門の優秀賞受賞は昨年度に続く2年連続という快挙です！

応募作品は環境にやさしいペレットストーブの熱を用いて豪雪地帯の屋根に積もった雪を自動で溶かし、その余熱を床暖房に活用する装置で、居住者の雪下ろしの苦労軽減と居住環境の改善を両立できるものです。プレゼンテーションでは応募作品の実現可能性（理論的裏付けと実証実験結果）が高く評価されました。



英語弁論大会で快挙

2012年11月16日～17日



大島商船高専で行われた第28回中国地区高専英語弁論大会に、土木建築工学科3年上重望さん、土木建築工学科2年藤川瑠璃さん、情報電子工学科1年大峠和基君、土木建築工学科1年福田大輝君が出演しました。ステージでは全員が練習の成果を遺憾なく発揮し、素晴らしいパフォーマンスを披露しました。その結果、上重さんがスピーチの部で2位、藤川さんがスピーチの部で5位、大峠君が暗唱の部で1位、福田君が暗唱の部で3位という快挙を成し遂げることができました。応援をどうも有り難うございました。なお、スピーチの部で2位に入賞した上重さんは、1月に東京で開かれる全国高専英語プレゼンテーションコンテストへの出場権を獲得しました。

高専ロボコン2012「ベストペット」 全国大会出場

2012年11月25日

国技館において、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2012「ベストペット」全国大会が開催されました。今回の競技内容は9つの穴に、ペット（ロボット）と共に協力して球を入れる正確性・スピードを競うものです。徳山高専のロボット「メカレオン倶楽部」はカメレオンをモチーフとしており、徳山高専色溢れるコンパクトでメカニク的な構造を備え、全国大会においてもカメレオンの舌から次々と球を穴に運んでいました。大会では、惜しくも二回戦敗退となりましたが、出場学生の一生懸命な姿勢とカメレオンの愛嬌ある顔に、多くの一般応援者や本校卒業生、教職員が声援を送りました。



パソコン甲子園2012「もう一つの本選」で全国2位

2012年11月

「もう一つの本選」—オンライン・チェレンジャーとは、パソコン甲子園2012プログラミング部門の予選を残念ながら通過できなかった参加者たちが、11月10日本戦当日の同一時間帯に、Web上で同じ問題を解いて競い合うコンテストです。

本校情報電子工学科からも1チーム2名構成の3チームが参戦しました。4時間にわたる長い闘い末、3年生の有馬諒君と近藤佑樹君のペア：チーム名“Mr.はんぺん”が、全出場チーム中、見事2位の栄冠を勝ち取り、表彰状と副賞が授与されました。なお、この時の得点31点は、本選出場チームの第8位と同じ成績となります。

今回、惜しくも上位入賞はできなかった他の4名の皆さんは、来年もチャンスがあります（高校3年生までの年齢制限）ので、今後の活躍が大いに期待されます。



高専機構理事長が徳山高専を視察

2012年11月30日



国立高等専門学校機構の小畑秀文理事長が本校を視察されました。学校の概要や産学連携活動、徳山高専テクノ・アカデミア、サテライト活動、キャリア教育支援についての説明の後、実習工場、学生寮、キャリアサポートブースを視察され、担当教員の説明に対し熱心に耳を傾けられました。

中国地区高専テクノ・マーケット開催

2012年12月1日

徳山商店連合会館（周南市）で「第5回中国地区高専テクノ・マーケット in 中国エリア」が開催されました。

国立高専機構の小畑秀文理事長、周南市の木村健一郎市長の開会ご挨拶の後、(独) 科学技術振興機構の中村道治理事長の基調講演「明日の日本を支える科学技術」が行われました。

また、高専と企業の技術者による技術移転シーズ発表、共同研究の成果発表、企業による高専生を対象とした就活キャリア教育、産学連携活動のパネル展示など、活発な情報・意見交換が行われ、総勢413名の熱気が終始、会場全体を包んでいました。



外国人による日本語スピーチコンテストでの受賞を報告

2012年12月11日



11月17日に山口市内で開かれた「外国人による日本語スピーチコンテスト」(日本国際連合協会山口県本部主催)において、情報電子工学科5年チンデグスレン・チンバトさんが最優秀賞を、情報電子工学科3年パトウ・イヤローさんが特別賞を受賞し、2人は12月11日、校長に受賞の報告をしました。このコンテストは、選抜された10人の県内留学生等がそれぞれの国の自慢や、日本との違いについてスピーチを行うものです。最優秀賞を受賞したチンバトさんは「壊れない日本製品と壊せない日本との関わり」と題して、母国モンゴルと日本の益々の発展と友好の架け橋になりたいとの思いを発表しました。これからの、本校留学生の益々の活躍が期待されます。

7年ぶり3度目 陸上部優勝 クラブ対抗駅伝

2012年12月15日

降雨で実施が危ぶまれる中、第30回クラブ対抗駅伝が開催され、学外参加の東洋鋼鈑チームと徳山大学陸上部を含めた全39チームが、一斉にスタートしタスキをつなぎました。

今大会は、1部と女子の部で大会記録を更新するハイレベルな競争となり、1部は、陸上部の長距離選手で構成された「陸上部長距離A」チームが、7分の陸上部ハンデを第1区からじわじわと詰めていき、第5区でトップに立つとそのままゴールに突き進み、見事な逆転となりました。女子の部では上位3チームが大会新記録を出す中、徳大OGチームが終始トップ集団でタスキをつなぎ、最終区でトップに立ち、優勝を飾りました。

また、同日午後開催されたクラブリーダー研修会では、徳山中央病院・集中治療科宮内善豊氏に救急蘇生法を講演頂き、参加した各クラブの顧問、代表学生が、AEDを実際に用いての緊急時の対応に、熱心に取り組みました。



第38回 高専祭を 終えて

■学生会長 林 辰宣

僕にとってこの一年間は本当に長く短い一年間であったと思います。学生会長という立場は自分が思っていたものよりもとんでもない重圧で、仕事を投げ出したいという衝動に何度もかされました。自分に自信が持てなくて不安でどうしようもないときもありました。しかし、そのたびに僕のことを会長として頼りにしてくれた学生会の仲間達の支えのおかげで自分を最後まで奮い立たせることができました。学生会長としてこの学生会の仲間とともにこの高専祭にかかわれたことを僕は一生誇りに思います。

最後になりますが、この高専祭が成功することができたありとあらゆる形でかかわってくれた皆さんにお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

■高専祭実行委員長 倉増 廉

今回の高専祭では、今まで以上に皆さん楽しんでもらおうということで新しいことに色々と挑戦しました。メイン企画、ステージなどの大成功は言うまでもありません。また、今回はゴミ箱の装飾や案内所の設置、パンフレットの見やすさ・楽しさなど、細かいところにも力を入れたため、みなさんが高専祭を楽しめたのではないしょうか！大成功に終わったのも学生会役員の仲間、先生方、お客さん、みなさんのおかげです！ありがとうございました。

■メイン 中谷 俊晴

今年のメイン企画は二年間続いた参加型アトラクションを一変させ、来場者全員を魅了できるものを発案・作成しました。テーマは「四季彩」。日本古来の伝統的な文化とLEDなどの現代技術の融合に3学科の技術を集結させ、学生会全役員の方で挑戦しました。高専祭当日は、在校生のみならず、学外の方にも来て頂きました。のべ1043人もの方にご覧頂き、中には涙する方もおられました。たくさんの方からお褒めのお言葉を頂き、本年度の企画は素晴らしいもの出来たと実感しております。実行委員としての役目をきち

んと果たせたかと思えます。

■ステージ 西俣 颯斗

高専祭が終わり、冬めいて参りましたがいかがお過ごしでしょうか。今回の高専祭のステージ企画、楽しんで頂けましたか？今年是一般参加可能な企画や女子企画など、より多くの人に楽しんでもらえる企画を御用意させて頂きました。個人的には大成功に終わったステージ企画は、参加して下さった皆様、共に準備に取り組んだ学生会の皆様や先生方の御協力があったのもです。皆様の御協力により、ステージ上の私自身も楽しませて頂きました。簡単ではございますが、今回のステージ企画に御理解、御協力賜りましたことをお礼申し上げ、挨拶と代えさせて頂きます。

■会場 大塚 雄太

僕は、昨年に引き続き、会場の仕事をさせて頂きました。今年は駐車場の整備に加え、宝探しという新企画も任されていて当日は会場メンバー全員大忙しでした。でも、他の学生会メンバーや交通問題対策委員も協力してくれてなんとか駐車場整備も宝探しも無事終えることができました。僕らが少しでも高専祭のために貢献できたら本当に嬉しく思います。

最後に、車を止めてくださった方や宝探ししてくださった方高専祭に来てくださった方、本当にありがとうございました。

■美化 島添 紗希

私は、学生会メンバー全員に感謝の気持ちを伝えたいです。今回の高専祭では、今までの仕事+ゴミ箱のデザインが加わり、とても不安でした。この私に部署長が務まるのかも不安でしかなかったです。カウントダウンの看板作成では、他部署の人が夜遅くまで作業を手伝ってくれたり、デザインと一緒に考えてくれたりと、本当に学生会メンバーの協力あってこそこの美化でした。当日は無事に、ハロウィンモチーフにした可愛いゴミ箱が完成し、とっても嬉しかったです。私の中で最高の高専祭となりました。部署長としての責任を果たせたかは今も分かりませんが、美化のメンバー、学生会メンバーと一緒に作業が出来たこと、そして、最高の高専祭を創ることが出来たことが私の誇りです。

「みんな、本当にありがとうございました!!」

■ロボコン 林田 耕作

周南ロボコン2012は多くの方の参加により大きな盛り上がりを見せました。積み木を積み上げるという競技において、参加者の方々のロボットの操縦技術、外見の美しさ、チームで協力して得点を重ねていく姿には本当に感動しました。この周南ロボコンは私に二度ないであろう経験をさせてくれました。この経験を大切にしていきたいと思います。

最後にこのように大成功を取めることが出来たのは大会運営、準備、製作教室などに携わって下さった方々のおかげです。御協力本当にありがとうございました。

■案内 福田 理沙子

私は去年に引き続き案内の仕事を担当させていただきました。今年は活動するのが少し遅れ気味で、前日までに門を完成できるのか不安がいっぱいでしたが何とか完成することができほっとした気持ちでいっぱいです。部署のみんなや他の部署の人たちも沢山協力してもらい、学生会のみんなで作り上げることの出来た門だったと思います。本当にありがとうございました。普段はあまり人の上に立つようなことはしていないので、自分にとってとてもいい経験になったと思います。この経験を生かしてこれからも頑張っていきたいと思っています。

■ファッションショー 吉田 望央

初めは不安ばかりだったファッションショー、学生会をはじめ参加してくれたみんなのおかげで大成功となりました。会場の拍手を聞いた時の感動、普段あまり関わることのない同級生や後輩と触れ合えたこと、私の大切なことからものです。本当にみんなありがとう。

■物品・バザー 今井 瑛里夏

今回の高専祭でバザーの部署長を務め、もともと細かく物を管理できない私に、あんな大量の物品を楽々管理できるはずもなく、段取りも悪く、本当に辛かったと思います。辛かったはずですが、でも、振り返ったら、楽しかったことばかり思い出されます。それは、みんなが寝ずに作業している姿や笑顔に励まされ、自分の仕事を辛くと感じることがあまり無かったからだと思います。バザーの部署長をするにあたって、みんなの存在がす

っっごく大きかったです。一緒に頑張ってくれた人、応援してくれた人、ありがとうございました。

■広報 瀬島 史也

「パンフレットよかったよ」という台詞を高専祭後、何度も言っていただきました。本当に励みになりました。今まで生きてきた中で感動的な部類にランクインしそうです。

ゆーてなんとかなる、のスローガンの下、ひたすらにパソコンに向かって作り続けました。なかなか孤立してた部署にも関わらず、みんなが励ましてくれたりコーラを持ってきてくれたり梅昆布茶を持ってきてくれたりして、さりげない気遣いが広報を助けてくれました。こんな毎日を誰もが送ることができるよう、将来、恩返しに行きます!!!!

■スポンサー 浅本 紗希

スポンサーの仕事は、お金の管理や広告の編集など責任の重い仕事でした。自分が失敗してしまったときにたくさんの方が、励ましサポートしてくれました。本当に感謝しています。高専祭が最高になったのは、スポンサー協力をしてくれた企業の方や学校の方など多くの人たちの支えがあったということのを再認識することができました。楽しい思い出をありがとうございました。

■ライブ 瀬田 大輔

高専祭の準備を通してライブの知識が乏しく悩んだ時期もありました。そのなかで多くの先輩方、友人に支えられ頑張ってきました。今年度のライブは音楽部をはじめOBの方々の演奏、新たに試みたダンスパフォーマンスで最高に盛りあがりました！学生会のみんな、出演者のみなさん、ライブを見てくれたみんなと最高の思い出を共有できて幸せでした♪



「Innovation ～今までにない寮生活～」 のさらなる実現を目指して

寮務主事 国重 徹

今年度より寮務主事を拝命しました国重（一般科目：英語担当）です。どうぞよろしくお願いたします。高城寮では、男子83名、女子18名の総勢101名が寮生活を送っています（1月15日現在）。



【平成24年度寮生会役員と国重主事】

新しい寮のスタッフは、次の6つのスタンス・目標を守り、達成できるように努力しております。

①ほのぼのした、帰りたくなるような寮にする。規則や制約はあるが、その中で楽しめることを工夫する。

②寮生が勉学に励む寮にする。そのため、勉強できる環境（貸し出し図書、勉強スペース）を整備する。

③寮生が様々な場面で適切なコミュニケーション、分別のある行動が取れる寮にする。

④寮生が健康的な生活を送る寮にする。特に、規則正しく、適切な食生活を送れるよう啓蒙する。

⑤物事を進める際には、寮生会や寮生と事前によく相談する。

⑥寮生1人1人を尊重し、できる限り親身に相談に乗る。

寮は、様々な国籍、年齢、これまでの生活環境など、異なる文化や背景を持つ人々が共同生活を行う場ですから、いわば社会の縮図です。そのような、ある意味厳しい環境での生活を通じ、寮生が困難な状況に対し常識的に対応できるだけのEQ、判断力、コミュニケーション能力、問題解決能力を有する人間に成長できるよう願っております。そのために、寮のスタッフは一丸となって全力で寮生をサポートしています。

これまでいろいろな場面で寮生と密接に関わりましたが、「よくやってくれている！」というのが率直な感想です。もちろん問題が全く無いわけではありません。しかし、寮生会を中心に様々な問題を解決し、自分たちの寮を少しでもよくしようとしている姿に感服しています。今年度の寮生会のテーマである「Innovation～今までにない寮生活～」という目標を、寮生がまさにいい意味で達成してくれているのを日々ひしひしと感じています。

寮生会を中心に、これまで寮生が頑張ってきた主な行事は、次の通りです。

入寮式（4月4日）

今年度から新たに寮で生活を始める新入寮生を受け入れる式典を開催しました。これからいよいよ寮務主事として仕事が始まる私はもちろん、初めての寮生活がいよいよ始まるということで、みんな緊張した顔をしていました。



【新入寮生代表宣誓をしている大峠君】

新入寮生歓迎マッチ（4月14日）

体育部長の藤村君が中心となって企画、準備をし、新入寮生を歓迎するためのスポーツマッチを実施しました。ポートボールやキックベースボールを行い、寮生みんなで汗を流しました。スポーツの後は、おいしいバーベキューで舌鼓を打ちました。



【歓迎マッチ】



【おいしいBBQ】

七夕（7月12日）

今年度は昨年度までと趣向を変え、男子寮を使って肝試しをしました。女子1人に男子が数名というグループでホラーハウスと化した男子寮内

を、ゴールを目指して進んでいくのですが、意外にも男子の方が恐がり、悲鳴を上げているのが印象的でした。企画部長の浅本さん、天川君の頑張り、ととても怖い、そして楽しいひとときを持つことができました。



【浴衣で勢揃いの女子寮生】

第1回学寮見学会（8月4日）

第1回の校内見学会に合わせ、寮では学寮見学会を開催しました。本校に入学すること、また高城寮に入寮することを希望するたくさんの中学生、保護者の方々を、寮生会役員が迎え、寮内の居室や施設を案内しながら、いろいろな質問に答えてくれました。

勉強会（定期試験前）

指導寮生長の宮田君、学習相談員を中心に、勉強会を実施しました。寮食堂で午後8時から9時半まで、低学年を中心に多くの寮生が参加し、集中して勉強を頑張りました。試験の結果については、従来のように寮生全体と通学生全体の平均点を単に比較するのではなく、寮生一人一人の成績資料を作成し、それに基づき必要な寮生に対して、面談を実施しました。



【熱心に勉強中！】

後期リーダー研修会（10月2日）

これまでのように、各部署の役割分担（書かれているもの）を音読し、確認することを研修の中心とするのではなく、今の寮にまつわる問題点を

審議する形にしました。また、初めての試みとして、今回から1年生代表として大峠君、2年生代表として迫田君、5年生アドバイザーとして山本昇君にも研修会に参加してもらい、必要に応じて意見も述べてもらいました。これらの試みは大変よかったので、今後もこの形をベースに、研修会を進化、発展させたいと思います。

後期寮生総会（10月4日）

寮のさまざまな問題に対し後期リーダー研修会で議論した結果を報告したり、寮生全員でさらに審議したりして、問題解決に向けての方向性が確認されました。多くの問題が、寮生のモラルの欠如に起因するものであることがはっきりしました。また、欠員となっていた留学生代表をジョン君にすることが了承されました。

予饞会（1月11日）

間もなく卒業する5年生を送り出すための盛大な会を催しました。準備から企画運営まで、企画部長の天川君を中心に、多くの寮生が協力して頑張ってくれました。お笑いライブ、音楽ライブ、女子寮企画など、盛りだくさんの内容でした。とてもいい雰囲気の中、最高に盛り上がり、参加者全員がすごく感動しました。



【予饞会での5年生と寮スタッフ】

この1年間大きい事故などもなく、寮生を安全に支援することができ、ホッとしています。素晴らしい寮生、保護者のみなさん、寮生会、寮務スタッフに恵まれていることに対して、感謝の気持ちを忘れず、これからも全力で寮生をサポートしていきたいです。

このような有意義で楽しい寮に入寮してみませんか？入寮を希望する人は、私や主事補の先生に相談して下さい。

・ 後輩諸君へ ・

マレーシアで頑張っています！！

ムハマッド カイルディン ビン アブドラ ガニ
MUHAMMAD KHAIRUDDIN BIN AB GHANI
(マレーシア)

H 22(2010)年3月機械電気工学科卒業

マレーシアに帰って間もなく1年が経ちます。私は、2010年3月に徳山高専機械電気工学科を卒業して秋田大学に編入学しました。秋田大学で2年間勉強して、その後2012年の4月に母国に帰りました。日本では色々な方々に5年間お世話になって様々な事を学ぶことができました。また、沢山の素晴らしい体験をすることができました。大学を卒業して母国に帰る時はとても悲しかったですが、いつか日本に帰るチャンスがあると信じています。

秋田大学では機械工学を勉強していました。秋田はとても寒くて徳山とは全然違うところでした。でもそこでは、また新しい友達や先生と出会うことができるととても幸せに過ごすことができました。更に、徳山高専で学んだことが大学で凄く役に立ちましたので、高専の先生方にとっても感謝しています。これからも先生方の教えを母国で役に立てていきたいと考えています。

私は、エンジニアになる夢を果たすためにマレーシアのトヨタ車体工場で働いています。日本を離れても決して日本語を忘れないために日本の会社を選

びました。ここで私は型保全ショップで働いています。車のパーツを作るための型の修理や点検を担当しています。最初は分からないところがいっぱいあって、いつも上司に怒られていました。でも、毎日毎日スキルアップさせて、徐々に周りの人にも信頼されるようになってきました。

人の上に立って働くことは難しい事です。突然仕事経験ゼロの新人が入社してきて間違った指導をすると絶対に嫌われますし、教える仕事の中で自分自身が分からないことがあることは恥ずかしいことです。上司に分からないことを聴き自身で一生懸命に勉強して理解したことを相手に教えます。そうすることにより周りの人々に好まれ友達も増えます。要は、コミュニケーションがうまく取れるかどうか重要なポイントになるのです。

今の職場は、1年もたっていません。学びたいことが沢山あります。20年、30年間の経験を持っている人々から技術を学びます。そしてマネジャー達を見て部下たちをコントロールする技を学びます。将来自分も立派なエンジニアになるために毎日頑張っています。

最後に今高専で頑張っている留学生たちにメッセージを伝えます。高専の生活は大変でしょうが、勉強・生活・スポーツに頑張ってください。青春は一回のみ。過ぎた時間は後戻りすることができません。高専でいっぱい学んで将来必ず母国の発展のために努力してください。

それでは、徳山高専のみなさんお元気です！！



2012年度の送別会時に秋田大学のマレーシア留学生たちと



トヨタ車体工場前に工場の制服で

・卒業する留学生・

徳山高専に来て本当に良かった

情報電子工学科
チンバト
CHINDEGSUREN CHINBAT
(モンゴル)



徳山高専に来てからもう3年経ちました。子供のときから、日本製品の品質や便利がよいことに興味があり、日本に留学し、品質のよいものを作る人になりたいと思っていました。運よく、4年前に日本に来ました。最初は世界のいろいろな国から来た学生たちと一緒に1年間、東京の日本語教育センターで日本語の勉強をしました。実験や演習が多くて、専門の授業がある高専という学校に行くことがとても楽しみでした。高専に来て、最初はルールが多いことや新しい生活、また日本語ばかりの環境が大変でした。しかし、頑張っているうちに慣れてきて、楽しいことが多くなって来ました。でも、高専坂を上り下りすることは最後まで大変でした。私はこの3年間、勉強や学校の活動に積極的に取り組んできたと思います。先生たちやクラスの皆、チューターの佐伯君のおかげで有意義な時間を過ごすことができ、自分を成長させることができたと思います。本当に感謝しています。

そう言えば…日本人にとって常識であっても、留学生にとってはそうでないことがたくさんあると思います。体育を見学したとき iPod で音楽を聴いて怒られたことがあります。僕のように怒られる前に留学生にアドバイスをし、助けてあげてください。また、日本人の学生から声をかけてくれることが少ないと感じますが、これから徳山高専に来る留学生にどんどん話しかけてあげてください。最初は戸惑うことがあると思いますが、お互いに楽しい時間を過ごせると思います。

卒業後は東京の電気通信大学に進学します。高専で学んだことを活かして、大学でさらに知識を深めていきたいです。そして、将来は帰国して母国モンゴルと日本との間の友好の懸け橋になりたいです。日本との関わりのある企業に就職し、母国の発展に貢献できたらなと考えています。最後になりますが、私はこの3年間で周南市が大好きになって、徳山高専に来て本当に良かったと思いました。

Bayarlalaa

チューター
情報電子工学科
佐伯 敬志



初対面の日、とても緊張していました。自己紹介をして他愛もないことを少し話して、僕らの初対面は終わりました。大きな声で笑いあったり、難しいことを議論すること、冗談を言ったりふざけたことをするなど一つもなかったと思います。ひどい話ですが…スタートは事務的な付き合いというのがびたりと合う感じでした。3年経った今、それは日本とモンゴルの距離の何倍も遠く、遥か彼方へと消えました。地球を1周して戻ってくるかもしれません。「チューターが佐伯でよかった」「留学生がチンバトでよかった」とお互いに本気で話をしたことがあります。小っ恥ずかしい話ですね…。母国や年齢、身長…いろいろな違いはありますが、僕らは親友です。留学生は頭がいいです。お世話係のチューターは大抵、勉強面ではお世話されるチューターになります。僕も例外ではありませんでした。僕が過去問を集めてチンバトは知識を集め、テスト前に交換するのが僕らのテスト対策でした。このことを含め、思い出深いことはこの原稿に収まらないほどたくさんあります。

3年前のあの日に、チューターになりますと言ったことを本当に良かったと思います。もし言っていなければ、今の僕は多分、違う僕であったと思います。勿論、良い方の意味です。そう思える程、チンバトには多くの刺激をもらいました。国は違えども…世界観やものの見方や考え方を、いろいろなものを共有したり受け取ったり渡したりができました。親友になることもできました。感謝しています。

お互い大学に編入しますが、これからは離れ離れです。ですが、このつながりはずっと大事にしていきたいと思っています。いつか再会して、徳山高専で過ごした時間のように楽しむことができれば嬉しいです。できれば、今度はモンゴルで会うことが出来たら最高だと思います。

Bayarlalaa, hugjiltei balilaa. Daraa uulzya.
「ありがとうございます。楽しかったです。また会いましょう」

・卒業する留学生・

なぜ日本？なぜ徳山高専？

土木建築工学科
チュン
LIM KIMCHHUN
(カンボジア)



僕は、「なぜ日本に留学してきたの?」、そして、「高専がたくさんあるのに、なぜ徳山高専なの?」と友達によく聞かれます。カンボジアでは日本の技術や、建築が有名で、日本に来てその技術を学ぶことを望む人が多いです。自分もその内の一人で、建築や土木について学び、交通設備や都市問題に関わる母国の発展に貢献したいと思い、日本にきました。もう一つの理由は、中学生1年からフランス語または英語を8年間にわたって勉強してきて、アメリカとフランスの文化や考え方などを把握してきましたが、日本の文化や文明、マナーなどを知らなかったため、それらを知るために日本に留学しました。

次はなぜ徳山高専に入学したかというとは実は、奨学金の条件で、自分で選ぶことができず、元々から決められたものでした。しかし、徳山高専に来て、本当に良かったといつも自分が思っています。そして、徳山高専で学んだこともたくさんあります。時は早いものです。徳山高専に来てから、あっという間に3年経とうとしています。最初の頃は、日本語にまだ自信がなかったので、課題・授業の内容や実験のレポートの書き方などがよく分かりませんでした。その時、先生や同級生にいろいろ教えてもらったり、知らない単語があれば簡単な単語を使って上手く説明したりしてくれて本当に助かりました。そして、周りの人がほとんど皆、日本人なので少しずつ日本人のことやマナーを把握でき、皆と上手く行動できるようになりました。最初の頃はもちろん文化の違い、性格の違いなどで戸惑うこともありましたが、今ではそれぞれを認めることができるようになりました。それは全て皆さんのおかげです。心から感謝しています。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、高専を卒業して、千葉大学に行っても、徳山高専で学んだことと、この3年間の思い出を忘れずに、力一杯頑張り続けたいと思います。

一期一会

チューター
土木建築工学科
大和 三晃



三年生の春、新しい仲間が遠くのカンボジアからやってきました。そう、チュン君です。

最初に、彼に会ったときにカンボジアの文化と日本の文化の違いについて話したことを昨日のこのように覚えています。僕が、チューターになったのは寮の事務だった兼本さんから「チューターをやってみないか?」と言われたことがきっかけでした。最初のころは不安もありましたが、時間が経つにつれてその不安も消え、「留学生とチューター」という関係から「仲のいい友達」という関係に変わっていき、たくさんの思い出を作ることができました。僕はこのチューターになれて本当に自分についてはいたなと感じます。

それは、普段は知る機会の少ないカンボジアの文化や習慣、言葉を知ることができたし英語も教えてもらうことができたからです。そして、自分の中で一番大きかったことは自分の視野を世界に向けることができたことです。日本では常識だと感じていたことが、外国では異なっていることや、自分の考え方と外国の人の考え方の違いを痛感させられました。だから、チューターをやることによって自分自身もいい刺激を受けて成長できたと感じます。これから僕は専攻科に進学をして別々の進路になりますが、これからのいろいろなことで笑いあったり、相談できるような大切な存在であり続けたいと思っています。そして、これからのチューターではなく一人の友人としてこのつながりを大切にしていこうと思います。

今までアドバイスをくれた先生方や、寮の事務の方々には本当に感謝しています。ありがとうございました。そしてまた、何年後かに彼に出会った時、「すごくなったなあ」と言われるような人に成長できるように日々精進していこうと思います。では、また・・・。

・ 今年の思い出 ・

★留学生見学旅行 (H24.5.12 - 13)

毎年恒例の留学生見学旅行に、留学生・チューター・教職員16名が参加しました。

今年は、初日柳井からフェリーで松山に渡り、昼食バイキングの後高松に移動し、栗林公園散策の後ホテルで研修を行いました。2日目は、金刀比羅宮の1368段の石段を登った後、うどん体験をしました。自分で打ったうどんの味は格別でした！



★留学生のふるさと展 (H24.7.14)

今回で9回目を迎えるこのイベントは、留学生と市民の方々の交流を図るイベントです。5ヶ国6名の留学生と、7月10日から20日までの間、本校に受け入れていた米国人の学生が、母国の歴史や文化などをプレゼンで紹介しました。来場された方は、遠い異国の話に熱心に耳を傾けられ、留学生と市民の方の親睦が深まる有意義な会となりました。



★留学生交流シンポジウム (H25.1.12 - 14)

鳥取県の大山で中国地区高専の留学生交流シンポジウムが開催されました。シンポジウムではさまざまな活動を通じて留学生と日本人学生の交流が行われました。第1日目の夜には各チームのメンバーが協力して趣向を凝らした雪だるまを完成させ、夜の森に歓声が響き渡りました。



★留学生のつどい (H25.1.19)

厳しい寒さが続く中晴天となったこの日、19回目となる「留学生のつどい」が本校の学生食堂で開催されました。この会は、日頃からお世話になっている方々をお迎えし、感謝すると共に交流を図るための毎年恒例のイベントで、3月に卒業する学生の送別会も兼ねています。会場は立錐の余地のないほど多くの参加者を迎えて始まり、本校の留学生にも多くの支援を頂いている「徳山高専テクノアカデミア」の小野会長の乾杯に始まり、留学生に日本語を教えて頂いている先生にスピーチをいただき、会は和やかに進んでいきました。卒業生を送る留学生が自ら作成したスライドショーや卒業生を送る歌、クイズ大会などが行われ、盛会に終えることができました。



機械電気工学科

就職・進学状況 自分の将来を見据えて早くから！



5年担任 機械電気工学科
教授 西村 太志

平成24年度の機械電気工学科5年生は34名と少ないですが、例年に比べて進学希望者が8名と少なく、就職希望者は26名と例年とほぼ変わらない人数でした。就職希望者に関してはほとんどの学生が6月中旬に内定し、7月中旬には全員の進路が決定しました。

本年度、機械電気工学科に求人してきた企業は464社で、昨年度とほぼ同程度の求人社数でした。しかし、その内容は昨年度に比べて厳しいものでした。東日本大震災の影響もあったのか、3月くらいから採用計画が見直され、求人を取りやめる企業も見られました。おおまかなスケジュールとしては4月中旬までに応募メ切り、4月下旬から5月上旬にかけて一次試験、一週間程度で可否の連絡という企業がほとんどでした。中には3月に応募メ切りの企業もありましたし、4割程度の企業は二次試験を実施しました。また、多くの企業では採用試験を数度にわけて実施していますが、今年の特徴として、応募してくる学生の数が例年に比べて多く、1回目の採用試験で募集人数を充足したため、2回目以降の試験を実施しない企業も見られました。

今年の状況をみていると、希望する企業に入るためには、当然のことですが4年生のうちに志望する企業を決めておく必要があります。4年生の学年末までに決まっていないと就職活動を始めるのが遅くなり、企業を絞ったときには応募メ切りを過ぎていくということになりかねません。そうならないためには、将来を見据えて自分は何がやりたいのかを見極め、早い時期から志望する企業を決定し準備を始めることが重要です。4年生の早い時期から（3年生でも早すぎるということはない）アンテナを張り巡らせ、いろいろな情報を手に入れて自分の将来について真剣に考えてください。4年生の夏休みには校外実習（インターンシップ）にも是非参加してください。企業というものを知る上でとても有効だと

思います。

興味のある企業がでてきたら4年生の学年末試験が終了後、会社見学に出かけてください。「百分は一見にしかず」、自分で動き、自分の目で確かめることが重要です。

志望する企業が決まったら、採用試験の準備です。採用試験では、SPIや一般教養試験だけでなく専門科目や英語の試験を多くの企業が実施していました。また、面接においては「高専時代に勉強以外で力を入れたことは何ですか？」という質問をよくされます。この質問に困る学生が結構多いような気がしています。クラブ、学生会、ボランティア活動など何でもいいと思いますので、“Only one”これだけは絶対人に負けないというものを作っておいください。

進学希望者に関しても全員が志望先に合格しています。進学に関しては推薦と学力による試験がありますが、学力試験を受ける気があればほとんどの人が進学可能ではないかと考えています。また、工学部だけでなく他の学部への進学も可能です。ただし、進学を考えている人は、就職する場合よりもっと早い時期からの準備が必要です。授業を受けながら進学の勉強をしなければならないため、かなり厳しいものになると思いますが、各大学とも過去の試験問題は公開されていますし、高専に入った皆さんなら4年生のはじめから計画的に勉強すればきっと合格することでしょう。低学年の皆さんは今から勉強を始めればきっと大丈夫です。

最後に、繰り返しになりますが、就職に関しても進学に関してもなるべく早い時期に志望先を決めることが重要です。悩んでいる人は担任の先生、学科の先生に相談してみてください。的確なアドバイスがもらえると思います。自分が何をやりたいのかよく考えてできるだけ早く目標を持ちましょう。

就職 出光興産、NOK、関西電力、GSユアサ、JXエンジニアリング、JX日鉱日石エネルギー、西部石油、武田薬品工業、田辺三菱製薬、中国電力（2名）、テクモ、東ソー（2名）、東燃ゼネラル石油、トクヤマ、日本たばこ産業、日立アプライアンス、日立交通テクノロジー、日立プラントメカニクス、三菱重工高砂、三菱重工名古屋、三菱電機、メタウォーター、矢崎総業、ヤンマーエネルギーシステム

進学 徳山高専専攻科（5名）、徳島大学工学部、豊橋技術科学大学、神戸医療福祉専門学校

就職・進学試験体験記

● 体験記①

就職活動体験記

機械電気工学科5年 木下 優



私は高専の就職率の良さに惹かれ、高専に入学しました。そのため、本科を卒業してすぐに就職すると決めていました。「3年からの成績が就職する上でも進学する上でも重要となってくる」と担任に教わってから、私は就職活動に向けて勉学に励みました。4年の夏には、中国電力株式会社のインターンシップに参加し、私たちの生活になくてはならない電気の発電方法や重要性などについて学びました。

私が本格的に就職先を決めようと思ったのは4年の冬でした。その頃には企業からの求人が多数きていて、高専の求人数の多さを改めて感じ、就職はもっと先のことだと思っていた私は少し焦りを感じました。しかし、私はインターンシップに参加したことによって私も電気のように、社会にとって必要不可欠な存在になりたいと思い、電気を作る仕事に興味をもっていました。そのことを担任の西村先生に

相談すると、自分の希望にあった求人票をリストアップしてくださいました。

私は、初めは県内就職を希望していましたが、求人票を見ている中で自分のしたい仕事をするのが将来の自分にとって良いことだと思い、県外も視野に入れて希望就職先を決めました。希望就職先を決めてからは、すぐに工場見学に参加し、自分の希望したもの合っているかを実際に確認しました。

就職試験を受けるにあたって、多くの先生方に面接練習などで御協力いただきました。本当にありがとうございました。就職活動は私にとって、これまでの私の生き方を振り返る良い機会であり、これからの私の生き方を決めるけじめでもありました。

これから就職、進学をする皆さん、日々の学校生活の中で何か一つ自慢できることを見つけてください。それを探している中で自分の将来やりたいことが見えてくるかもしれません。

三菱重工業高砂製作所

● 体験記②

早めの目標設定、そして行動へ



私が徳山高専卒業後の進路について真剣に考え始めたのは、3年生の後期からでした。

それまでの私は明確な進路の目標が定まっておらず、ただただ学校生活を過ごしていました。そのため、なかなかやる気を起こすことができず、成績も下がっていました。このままではいけないと感じ、当時の5年生の担任の先生に時間を作ってもらい、就職や進学状況について詳しく説明をしてもらいました。その後、自分でも時間を見つけ、就職先や進学先の情報を詳しく調べるようになりました。また、就職でも進学でも大丈夫なようにと、この時期から勉強（特に専門科目）に一層力を入れるようになりました。

私が進路をはっきりと進学に決定したのは4年生になってすぐでした。専門科目に力を入れる内に、より多く専門知識を身に着けて社会に出たいと考え

機械電気工学科5年 水野 直也

るようになったからです。大学についても検討したのですが、高専という良い環境を生かして勉強したいと考え、専攻科を志望しました。

専攻科へ進学することをおある程度早く決定することができたため、英語の勉強などに早めに取りかかることができ、4年生の1年間をととても有意義に使うことができました。進路について早めに考え、行動を起こして本当に良かったと思います。

これから就職活動や進学をされる皆さん、目標を設定し、その目標に向かって何をすればよいかということについて、なるべく早めに考えてみることをお勧めします。私もそうでしたが、目標があるのとないのではやる気が大きく違います。進路のことですので、即決するのはとても難しいことだと思いますが、自分で調べたり、先生に相談したりするなどして自分が本当にやりたいことを見つけ、その目標に向かって頑張ってください。

徳山高専専攻科

情報電子工学科

就職・進学状況

情報電子工学科の就職・進学活動を振り返って



5年担任 情報電子工学科
教授 重村 哲至

平成24年度の情報電子工学科5年生は44名で、就職希望者23名、進学希望者19名、その他2名でした。

まず就職ですが、24年度は「就職・採用活動の早期化是正」を目的に大学等と経団連で申合せがされたため、採用活動のスケジュールが例年と異なってくる事が予想されました。採用活動の開始時期が遅くなったため、開始後、短期間で採用予定数が充足されることを警戒しました。学校推薦で選考を受ける場合、複数社の選考を同時に進めることはできません。1社目で合格しないと、選択できる会社が一気に減るかも知れません。1社目で内々定を取れるような指導を心がけました。

就職に向けての平均的なスケジュールは、2月下旬に志望先決定、3月に会社研究・書類作成、3月末～4月中旬（会社による）までに書類発送、4月に選考でした。準備では、3月が最も重要な時期になります。

会社研究では、可能なら会社見学をさせたり、求人で来校される担当者の話を聞かせたり、本校のOBやOGにメールなどで連絡をとらせたりしました。卒業生を見つけるためにSNSを用いた学生もありました。卒業生の話を聞いて志望の意志を強くした場合もありましたが、会社見学をして志望先を変える場合もありました。ここでしっかり会社研究をした上で履歴書やエントリーシート等の書類を書きます。

書類は発送日より、かなり、早めに仕上げます。書類の内容を面接官役の教員に読んでもらってから面接練習をし、書類の内容を確認するためです。会社だけではなく、自分自身を徹底的に研究し書類を書いていなければなりません。深く考えずに書いた事柄があった場合、面接官に質問されても答えることができません。この段階でそれが分かります。必要なら書類を書換え、再度の面接練習で内容確認を

やりなおします。

このようにすることで、書類の完成度が高くなることは勿論ですが、より深く会社研究をすることが強いられ、また、自分を見つめ直す機会になり、志望の気持ちがより強くなるように感じました。

書類を発送した後は、面接練習を繰り返していきます。学科教員の応援をお願いして例年より手厚く面倒をみました。また、学生同士で練習をしたり、個人的に他学科の先生をお願いして武者修行をさせてもらった場合もあったようです。

その結果、1社目で合格した学生は74%でした。その中で、学校推薦で応募した場合は83%、自由応募の場合は40%でした。なお、自由応募は5名だけでした。自由応募の学生は、学校へ求人がない会社を選んでいる場合もあり数字が小さくなりました。求人があった会社を選んだ学生だけに絞ると自由応募の場合でも67%になります。

次に進学ですが、徳山高専専攻科5名、国立大学14名となりました。難関校を目指した学生は3年生の頃から計画的に勉強をしていたようです。「高専からの大学編入」に関する情報もインターネット上にいくつかあり勉強方法の参考にできます。早めに準備を始め、受験勉強を優先するために5年生の勉学に支障が生じることがないようにしましょう。

最後に、就活に関して色々な情報が流れていますが、表面的で些細な情報に振り回されないようにして頂きたいものです。ありのままの自分を面接官に見せて、合格できる人物になっておくことが最も大切です。そのためには、低学年のときから何事にも興味を持ち、あるいは、真剣に取り組みましょう。自信をもってアピールできる何かを持っていれば、多少の弱点は問題になりません。自分を磨き高めるために今やるべきことは何か、低学年の時からよく考えて行動しましょう。

就職 インフォコム西日本、宇部情報システム、NTTフアシリティーズ中国、NHK、オムロンフィールドエンジニアリング、科学情報システムズ、KDDIエンジニアリング、コニカミノルタビジネスソリューションズ、JR東海、ダイキン工業（2名）、中国電力、東ソー情報システム、東邦工業、トクヤマ（2名）、日東電工尾道事業所、日本電測機、日立アドバンスデジタル、富士通九州システムズ、リコー、ワールドストアパートナーズ、Wegow

進学 徳山高専専攻科（5名）、大阪大学、岐阜大学、熊本大学、高知大学、神戸大学、電気通信大学、豊橋技術科学大学（6名）、広島大学、横浜国立大学

就職・進学試験体験記

● 体験記③

就職活動体験記

情報電子工学科5年 山根 千佳



私が初めて就職について具体的に考え始めたのは4年時に行ったインターンシップからです。電機メーカーに興味があったことと内容が面白そうだったから参加したインターンシップでしたが、そこで様々な経験ができました。工場見学をしたり仕様書が与えられ実習を行うことで仕事の辛さ、達成感を学んだり、社員の方、特に人事部の方や他高専生との交流をしたりしました。その様々な方との交流を通じて真剣に就職について考え始めました。また、この体験から“ものづくりの現場”で働きたいと思うようになりました。

しかしなかなか受ける企業を決めることができず、とても悩みました。受ける企業を決定してからは、担任に連絡を取ってもらい3月に工場見学をさせていただきました。ただ見学をするだけでなく案内して下さった人事部の方にアドバイスをいただいたり、入社してからのスケジュールについて説明していただいたりし、企業に対する

理解を深めることができました。受ける前に企業を見学して企業に対する理解を深めたり、職場の雰囲気を確かめたりすることは大切だと感じました。履歴書の作成では企業の求める人物像や人事部の方からのアドバイスを基にアピールすることを決定し、エピソードを厳選しました。何をアピールする必要があるのかを考えて書くと書きやすいと思います。面接練習では思うように話せず、とある先生に泣かされたりもしましたが、そのお陰で面接本番は言いたいことが言えました。面接練習は誰に何を言われても挫けずに頑張ってください。

最後に、4年生になってなにもアピールできることがない！と焦らずに済むよう自分の武器を作っておくことをお勧めします。自分が自信を持つことがあると、履歴書が書きやすく、面接が楽になります。ぜひ、様々な経験をして自分の武器を作ってください。

最後に、4年生になってなにもアピールできることがない！と焦らずに済むよう自分の武器を作っておくことをお勧めします。自分が自信を持つことがあると、履歴書が書きやすく、面接が楽になります。ぜひ、様々な経験をして自分の武器を作ってください。

最後に、4年生になってなにもアピールできることがない！と焦らずに済むよう自分の武器を作っておくことをお勧めします。自分が自信を持つことがあると、履歴書が書きやすく、面接が楽になります。ぜひ、様々な経験をして自分の武器を作ってください。

最後に、4年生になってなにもアピールできることがない！と焦らずに済むよう自分の武器を作っておくことをお勧めします。自分が自信を持つことがあると、履歴書が書きやすく、面接が楽になります。ぜひ、様々な経験をして自分の武器を作ってください。

リコー

● 体験記④

編入試験体験記

情報電子工学科5年 原 翔平



就職率が良いらしい、という理由で高専に入学した私が、大学編入の道があると知ったのは2年生の頃でした。1年生で学ぶ専門科目に触れ、科学技術の面白さに魅せられていた私は、高専卒業後ももっと工学について深く学びたいと思い、大学に進学しようと決意しました。

まず最初に、2年生だった私が大学編入に向けて取り組んだのは英語の勉強でした。高度な数学や専門科目は高学年で習ってからでもいい、英語なら今からでも自分で勉強できるだろうと踏んだからです。毎日、通学の電車の中で単語帳で単語を覚え、文法書を読んで読解力を深めたりと、30分程度の時間を惜しみなく英語に使いました。本格的に英語以外の教科を勉強し始めたのは5年生の春休みからですが、地道な英語の学習が功を奏し、編入試験の英語科目に対する不安は一切無く、余裕を持って数学や専門科目の勉強にあたることができました。

編入試験までの道は長く辛いものでした。周りの人が続々と就職・進学先を決めていく中で、自分はどうなるのか、という不安に何度も襲われました。編入に対する意欲を失いそうになったこともありました。そのようなとき、モチベーションを上げるために私がしたのは、妄想をすることです。試験に合格したら真っ先に誰に報告するか、大学に編入したらこのサークルに入りたい、大学から歩いて10分くらいのところでアパートを借りよう、といった妄想を寝る前の布団の中でしていました。意欲を失わずに済んだのは、この毎夜の妄想のおかげだと思っています。

以上、私が編入試験に向けて努力した日々の中で、心に強く残っていることを挙げて書いてみました。試験までの道は険しかったですが、終わって振り返ってみると、どれもこれも良い思い出です。書きたいことはまだまだありますが、紙面の都合上、ここで筆をおくことにします。

大阪大学

土木建築工学科

就職・進学状況 進路を決めるといふ強い意識 が必要



5年担任 土木建築工学科
教授 橋本 堅一

本年度の土木建築工学科5年の学生数は46名で、そのうち女子学生が19名と、土木建築工学科ではこれまでで最多数の女子学生が在籍していることとなります。

就職に対しては「買手市場」という言葉が適用できるような環境で、会社や自治体が十分吟味して採用を決めるといふ姿勢が読み取れます。しかし、東日本大震災の復興という背景があり、ほとんどのゼネコンで右肩下がりであった売上が上昇するという近年にない傾向を示しており、施工管理の求人は増加してきています。来年度については、笹子トンネルの事故で多くの土木構造物の不備が見つかっており、さらにその傾向は促進するものと考えられます。女子学生については、施工管理という職種で敬遠される傾向があり、就職活動は厳しいものとなっています。

進学については、少子高齢化のわが国特有の社会情勢を背景に、大学編入については容易になっているといえます。成績が不振であると位置づけられる学生が、国立大学に合格することはまれではないという状況です。大学進学を決めた学生19名のうち、12名が推薦での合格です。推薦入学試験制度で不合格になる学生はほとんどいません。一方で、大学入試の偏差値の高い大学は、推薦編入学制度を持っていません。しかも、東京大学と京都大学は卒業に3年を要する課程となっています。したがってその2大学に編入すれば、1年遅れて大学を卒業することになりますから、大学院に行くのなら大学院からという考え方はあると思います。しかし、他の旧帝大や東工大にチャレンジするといふ意識が重要ではないかと思えます。

就職にしても、進学しても表題に挙げたように、進路を絶対に決めるといふ強い意志がなければ、思うような進路、やりたいことのできる進路には到達できないようです。ディスプレイ業界の最大手の乃村工芸社やスーパーゼネコンの大林組の内定を勝ち

取った学生は、早期からターゲットを絞り、就職活動に対する戦略を持っての内定で、合格すべくしての合格といえます。それに対して、自分に自信の持てない、本当にその会社に入りたいのかもわからないような学生は、その意識が結果に反映されていません。

前述した「買手市場」に言及すれば、エントリーシートで不合格にされた例も出ています。これについては自分自身にアピールポイントを持つといふ姿勢が必要であると考えます。アピールポイントは本校では重要視される学生会活動程度では通用しないようです。確かに、我々から見ると、よく頑張っているという活動が、会社側には伝わっていないと感じています。したがって、誰に対しても、どこに対しても通用するアピールポイントを持つことが必要です。本科ではありませんが、専攻科の学生で、TOEICのスコアが900点を超える2学生は、希望する会社に合格しています。

今年度1年就職を担当して色々なことがありましたが、進路変更が多いという事実を紹介しなければなりません。まず、女子学生に対する求人が少ないこと、これについては男女雇用均等法であってはならないことですが、受験しても不合格になる可能性が大きいという事実があります。民間就職を希望していた女子学生が3名公務員に内定しています。福利厚生を環境を考えれば悪いことではないような気がしますが、そういう事例もありました。また、大学受験に失敗した学生が1名、民間就職に変更しました。現在では、看護師系の専門学校の受験を控えている学生が1名、研究生で残って、公務員受験、大学受験を再受験する学生がそれぞれ1名います。

以上、今年度の土木建築工学科の進路状況を紹介しましたが、今、感じていることは本校の学生は優秀で、その気になればいかなる進路にも対応できるという事実でした。

就職 アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッド、イシン、出光興産、大林組、三喜工房、シーエックスアール、新日鐵住金ステンレス、西部設計、太平洋コンサルタント、中国電力、東洋建設、NIPPO、NEXCO西日本、ネストハウス、乃村工芸社、ハツタ山口、前田道路、横河ブリッジ、防衛庁、周南市、光市、防府市、山口県

進学 徳山高専専攻科（8名）、愛媛大学、九州工業大学、京都工芸繊維大学、熊本大学（2名）、神戸芸術工科大学、滋賀大学、千葉大学、豊橋技術科学大学、広島大学、福井大学

就職・進学試験体験記

● 体験記⑤

就職活動を振り返って 土木建築工学科5年 高村 勇介



私の内定先の乃村工藝社は、徳山高専から入るのは初めてで、ディスプレイ業界という業界にある会社です。私が乃村工藝社のことを知ったのは、高3のとき、デザコンの準備中に西尾先生からその名を聞いたのが最初です。そして、4年の10月に乃村の本社

で行われた就活セミナーに行きました。そこで、人事部の人がすごく楽しそうに会社のことを話してくれて、自分もこの人たちと一緒に働きたいと思い、乃村工藝社を第一志望にしました。正直、乃村工藝社しか見ていなかったのに、落ちた時のことは考えていませんでした。幸い試験も3月にあったので、落ちても次があると思っていました。しかし試験が早い分準備の期間は短く、その際には多くの人たちに助けられました。

面接会場では同い年の人はおらず、大学生や大学院生ばかりで緊張しました。最終面接のとき、緊張しすぎてドアをノックするのを忘れてしまったときは「落ちたな、俺」と思いました。(笑)

しかし内定の通知をいただいたときはあまり実感がわかず、内定式のときに4000人中の18人の中に選ばれたと聞いて、初めて凄さに気づきました。就活中は就職対策などあまりしてなかった自分がなぜ受かったのか、それは自分が今まで高専で過ごしてきた日々のおかげでした。部活動や、学生会活動、寮生活、自分が培ってきた日々の努力が自分自身のスキルとなっていたのです。

これから就職活動をする皆さん、自分が過ごしてきた高専生活での日々を思い出してみてください。必ず自分の特徴となるものがあるはずです。特に寮生は挨拶や寮での活躍は面接で絶対役に立ちます。就活をやって気づいたことは、自分たちが住んでいる世界はとても狭いということです。様々なものに興味を持ち、自分の引き出しを広げてください。そうすれば自分のやりたいこと、なりたいものが見えてくると思います。

最後に、自分の就職活動に携わってくれた方々に感謝します。徳山高専、全国の高専の懸け橋になれるよう頑張ります。

乃村工藝社

● 体験記⑥

高専からの大学編入 土木建築工学科5年 福田 友紀



本来、高専を卒業したら就職するつもりだった私が大学進学を考え始めたのは3年生の終わり頃でした。大工の祖父、建設会社に務めている父の姿に憧れ、自分も建築を学ぼうと徳山高専に入学しましたが、より建築の知識を深めるために高専から大学に進学することを決意しました。志望校を決めるにあたり、先生方から「行きたい研究室がある大学に行け」とのアドバイスを頂き、自分が学びたい分野の研究室がある3つの大学を受験することにしました。高専からの大学編入の大きな利点は、高校からの受験と違い、入試の日程が被っていないければ、国立大学をいくつも受験できることです。また、試験の科目数が少なく、問題の傾向が明確である点も挙げられます。

そこで、4年生の後期辺りから過去問を取り寄せて入試対策を始めました。特に専門科目においては、構造力学は全て現状で解ける内容でしたが、

建築計画、環境工学などについては授業ではまだ学習していないものがほとんどだったので、自分で勉強して過去問を解いては先生の下に足を運び、解説して頂くことを何度も繰り返しました。

その後、2校続けて合格を頂き、この時点で第一志望である豊橋技科大に進学することを決めました。豊橋技科大を第一志望にした理由は2つあり、1つ目は先に述べた様に、自分の学びたい分野である、構造系のレベルが高い大学であることです。もう1つは、高専生（編入生）の受け入れ体制が整っている点です。特に、技術科学大学は高専からの編入生を受け入れる目的で設立された大学なので、その点の不安がありませんでした。

高専には5年間という長い時間があります。その中で自分の夢を見つけ、その実現に向けて目標を持って毎日を過ごして下さい。私は大学に進学しますが、それは夢を叶えるための道のりに過ぎません。自分の夢を叶えることができるように歩むべき道を定め、そこに向かって頑張ってください。

豊橋技術科学大学

機械制御工学専攻

就職・進学状況 先を見据えて日々努力を



機械制御工学専攻幹事
機械電気工学科
助教 鈴木 厚行

本年度の機械制御工学専攻2年生は7名で内2名が就職予定で、他の学生は進学予定です。本年度は進学を希望する学生が多かったです。ここ5年（平成20～24年度）の傾向では合計35名の学生の内、就職した学生が21名、進学した学生が14名です。本年度の就職・進学先は以下の通りです。

本年度、就職希望の学生2名はそれぞれ地元企業と県外企業に内定しています。両名とも事前に企業についてよく調査しており、企業とのマッチングを重視していたようです。行きたい企業を早い内に見つけ、十分に調査することはとても有効だと思います。会社説明会やインターネットなどから多くの情

報が得られますが、専攻科1年次に行う長期インターンシップなども大きな判断材料になるでしょう。

本年度、決定した進学先は全て国立大学大学院です。専攻科生の受入に積極的な大学が多い状況が続いており、専攻科生を対象とした推薦制度がある大学も多くあります。研究開発職を修士以上に限定している企業は少ないため、研究開発職を目指す学生は大学院進学も検討するとよいと思います。大学院進学の場合、希望する研究室がどのような研究をしているかよく調査することが大事です。本年度も全員が希望する研究室を訪問しました。

就職・進学いずれの場合も多くの候補があるかもしれませんが、本当に行きたい道を進むには、日々の努力によって実力を付けることが大事だと思います。

就職 三菱機工、日立プラントメカニクス

進学 岡山大学大学院、九州大学大学院（2名）、東京医科歯科大学大学院、長岡技術科学大学大学院

就職・進学試験体験記

● 体験記⑦

進学に向けての1年間

機械制御工学専攻2年 藤井 光



私が大学院へ進学しようと思ったきっかけは、専攻科1年前期のインターンシップです。東洋鋼鈑の研究所で研修を行った時、将来私も研究職に就きたいと思い、今以上に研究開発能力や経験をつけるため大学院進学を決めました。

そして、1年後期から少しずつ様々な研究室を調べ始めました。まず、研究室の概要を大学のHP等で把握しましたが、研究室の詳しい情報を知りたいと思い、3月頃に研究室訪問を行いました。その訪問で、自分が行える研究内容、研究設備・環境などを知り、さらに研究室の先輩と話す機会も頂いたので、入学試験やそこでの生活環境など、先輩の経験談も聞くことができました。そして研究室訪問を経て、研究内容や研究室の環境を考慮し、長岡技術科学大学への進学を決めました。

入試については、私は推薦入試を受けました。試験は面接のみ行われ、質問内容は大まかに今の専攻

科の研究内容と、大学院で行いたい研究についての2つでした。自分の専攻科での研究をしっかりと取り組み、研究室訪問等で大学での研究内容についてよく調査し自分の考えを持つようにしていたため、無事に合格することができました。

最後に、進学活動を通して重要だと感じたことを2つ挙げます。1つは「早めの行動」です。研究室訪問をする際、向こうの先生方は学会等で忙しくスケジュールが合わないこともあるため、気になった研究部屋があれば、早めに連絡を取ってみるべきです。もう1つは「英語力」です。昨今の大学院の英語の筆記試験や就職活動において、TOEICスコアを要求してくることが多くなっています。本科4、5年や専攻科では英語授業数が減り英語を学習する習慣が薄れがちなので、自分から毎日少しずつでも取り組み、できればTOEICスコアを上げるだけでなく、実際に英語を使えるようになっておく卒業後必ず役にたつはずで

長岡技術科学大学大学院

情報電子工学専攻

就職・進学状況 「実践力」≠「即戦力」



情報電子工学専攻幹事
情報電子工学科
准教授 新田 貴之

平成24年度情報電子工学専攻2年生は、4名が在籍し、就職希望2名、進学希望2名という状況で、就職進学の希望を途中で変更することなく、全員の進路が決定しました。専攻科の進路状況の特徴は、インターンシップ〔1年生6月からの2ヶ月間〕の行先希望を考える時点で、就職か進学かの大きな分岐点を知る所にあります。つまり、自分のキャリアを考える時期は、専攻科入学前がベストなタイミングとなりえます。専攻科に進むと、進路決定に2年の猶予ができると感じることは、大きな勘違いです。

さて、標題の「実践力」と「即戦力」の違いについて、正しく感じ取っている人は、どの程度います

でしょうか。響きが似ているので、一緒のことでしょうか？ 具体例では、情報分野だと、プログラムを大量に記述できる人が実力を有する者でしょうか？ 「モノが作れば良い」とだけ感じている人は、「即戦力」だけを気にしすぎて、肝心の「実践力」を養うことを見失っています。今一度、本校の教育目標を見て下さい。「即戦力」というキーワードは、見あたりません。この学校で養っているのは、「実践力」です。自律したエンジニアとなり活躍することが世の中で求められています。その事実気付ければ、進路決定の大きなヒントとなることでしょう。

末筆ですが、昨年度の当専攻分の進路報告に関し、

誤) 富士通九州ネットワークシステムズ

正) 富士通九州ネットワークテクノロジーズ
の誤りがございました。慎んで訂正を申し上げ、関係の皆様へ、お詫び申し上げます。

就職 エヌアイ情報システム、富士通山口情報

進学 九州大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学

就職・進学試験体験記

● 体験記⑧

私の進学活動体験記

情報電子工学専攻2年 林 佑亮



私が大学院進学先を決めるきっかけとなったことは、専攻科1年次の奈良先端大でのインターンシップでした。実際に2ヶ月間、高専とは異なった環境に身を置いて研究活動を行い、充実した研究環境でより深い研究をしたいという思いが強くなり、奈良先端大に進学しようと決めました。

受験勉強を始めた時期は3月からでした。入学試験では、数学と英語、専門科目について口頭試問が実施されます。数学は過去問から出題傾向をつかみ、それを重点的にやり、英語は、英文多読をしていました。専門科目は出願の際に提出する小論文をもとに口頭試問が行われます。そのため、小論文作成時に、多くの先生方に添削をしていただきました。また、口頭試問対策として、想定質問を作成していただき、それについて完璧に説明できるようにしました。入試までの間、ほぼ毎日学校に通い、勉強に励みました。受験勉強の日々はとても大変でしたが、自分と同じく大学院を自

指す友人から、刺激を受け、頑張り続けることができました。多くの方々の支えがあり合格することができたと思います。ありがとうございました。

大学院進学を考えている皆さんへのアドバイスとして、是非、進学を希望する研究室を訪問してください。研究室の先生方や、院生とお話をさせていただくことで、研究室内の様子を詳しく知ることができ、受験勉強のモチベーションも上がると思います。また、入試に関するアドバイスも聞けるかもしれません。それから、早め早めの行動・準備が大切です。数学や英語は、一朝一夕で身につくものではなく、毎日コツコツと勉強する必要があります。また、大学院入試は主に7～8月に実施され、ちょうどこの時期は、学位取得のための学修成果レポートの作成や授業で本当に忙しくなります。そのため、日頃から研究を行い、余裕を持って受験対策に取り組むことが大切です。あと、英語は今後絶対必要なので勉強しておくことをオススメします。

奈良先端科学技術大学院大学

環境建設工学専攻

就職・進学状況

就職超氷河期でも就職・進学率 100%



環境建設工学専攻幹事
土木建築工学科
助教 西尾 幸一郎

2012年度環境建設工学専攻の就職・進学状況は、修了予定者のうち、民間就職10名、国立大学大学院進学8名、地方公務員4名でした。今年も就職・進学率100%を達成し、しかもほとんどの学生が第1希望の企業等から内定をもらうことができました。

今年の就活生は、例年と比べて、学生一人ひとりが早い段階からしっかりと対策を立てて就職・進学活動に取り組んだことが功を奏したと思います。就職組では14名中9名が、1年次に関連業種での長期インターンシップを経験しています。また、協調性や体力が特に重視されるゼネコン等の企業には体育会系の学生が希望するなど、自分の適性や企業側のニーズを理解した上で進路先を選択する傾向も見られました。大学進学組も春先にはほぼ全員が複数の大学の研究室を訪問し、各校の状況を把握した上で

受験対策を講じていました。また、英語力を高めるために春休みにオーストラリアへ3週間のホームステイにいき、TOEICのスコアを100点以上向上させた学生も2名います。

最近では、専攻科の認知度も上がり、本校の専攻科生が企業からの評価が高まっていることを強く感じています。就職超氷河期と言われる昨今の状況下にあって、求人数は2010年度88件、2011年122件、2012年度128件と毎年増加していますし、求人倍率は常に10倍以上をキープしています。ただし、いくら専攻科生の就職・進学率が高いからと言って、下級生や保護者の方々は決して油断しないで下さい。企業から評価されているのは、専攻科卒という肩書きではなく、本科や専攻科で様々な経験を積み、相応の能力を獲得し、早い段階から将来に向けた準備をしている学生です。毎日を無為に過ごし、授業に遅刻してもヘラヘラ笑って悪びれもせず、お情けで卒業させてもらうような学生ではありません。保護者の方々、ご心配な場合はお気軽に相談して下さい。

就職 アイサワ工業、NTTファシリティーズ、セキスイハイム中四国、大成建設、タマホーム、ドコモエンジニアリング中国（2名）、西松建設、三井住友建設、村本建設、防府市（2名）、山口県（2名）

進学 岡山大学大学院、京都大学大学院、九州大学大学院、神戸大学大学院、名古屋工業大学大学院（2名）、横浜国立大学大学院（2名）

就職・進学試験体験記

● 体験記⑨

何事も体験してみるのが大事



私はこの度、防府市役所の建築職に就職が決まりました。私が専攻科に進学したのは、長期インターンシップがあることと、在学中に2級建築士が取れるという理由からでした。ですから就職に関しては、漠然と民間の企業というくらいしか考えていませんでした。そんな中、専攻科の長期インターンシップがあり、先生の勧めもあって民間の工務店と、公務員系の検査機関の2か所へ行きました。民間の企業では現場監督の仕事を、検査機関では建築確認申請の仕事を体験しました。どちらともやりがいがある仕事でしたが、実際の職場で働いてみて、自分は公務員のほうが向いているのではないかと思い、1年生の夏休みに公務員試験を受けようと思いました。

私が本格的に試験対策を始めたのは1年生の12月で、公務員志望の友達と情報交換をしあつ

たり、勉強を教えあつたりしました。2年生の5月から試験が始まり、練習を兼ねてなるべくたくさん試験を受けに行きました。約10か月努力した結果、無事内定をいただくことができました。

環境建設工学専攻2年 笹本 康太郎

最後に、就職活動に関するアドバイスを、まずは、行きたいと思った会社をよく調べ、機会があれば体験してみることがとても大事です。私の場合はインターンシップもそうですし、官庁訪問などでの面接もその後の面接試験にとっても役立ちました。また、企業体験や会社説明会にも積極的に参加することで、今まで知らなかった魅力的な企業も見つかるかもしれません。情報というのは待っているだけでははいつてこないものです。就職活動は受け身でなく、自分から積極的になればきっとうまくいくと思います。

防府市役所

卒業生だより

卒業後の7年間を振り返って

機械電気工学科 第28期卒
トヨタ自動車株式会社
河本 直也

私は2006年に卒業後、トヨタ自動車の技術部門でガソリンエンジンの開発に携わっています。ご存知の通り、トヨタは全世界・全ジャンルのクルマを扱うメーカーです。具体的には、乗用車はもちろんのことLEXUS LFAのようなスーパースポーツからランドクルーザーのような本格四駆、ハイエースなどの商用車、シティコミューターのiQまであり、これほど種類に富んだ自動車メーカーはそうないでしょう。そうすると、当然エンジンラインナップも膨大です。トヨタのエンジン部門には1000人を超えるスタッフがおり、それだけで会社が立ちそうな規模で日々開発に勤しんでいます。

私は実験担当を経て現在は設計を担当しており、年々厳しくなる市場要求（特に低燃費、低排ガス）の達成のため、他社との競争にさらされる最前線で奮闘している今日この頃です。

2～3年後に世に出る新製品開発をする傍ら、現行エンジンの品質向上活動や原価低減もせねばならず、とにかくスピードが命です。

最近では生産台数増と円高により生産の海外シフトと部品の現地調達化がハイペースで進んでいます。当然、現地の工場や部品仕入先とのコミュニケーションの機会が飛躍的に増え、苦手な英語の文書やメールのやりとりやTV会議の嵐、文化の違いで日本的な仕事の仕方が海外では通用しないことも頻繁にあり、グローバルを肌で感じると同時に、日本人の持つ素晴らしい点に改めて気付かされます。

世界は広く、日本人の感覚では思いもよらない車の使い方をします。200km/hを超える高速走行があったり、-40℃を下回る極寒から50℃を超える灼熱の環境、水深1mの川を毎日渡る地域や標高4000mで生活する国、道なき道を走る国、燃料の品質が悪い国…それらすべてを考慮して図面に織り込まねばなりません。様々な困難が行く手を阻みますが、原理原則に基づいて現象解析し

解決するプロセスの中で、高専時代に学んだ知識が随所で役立っています。

そんな忙しい毎日の中モチベーションを上げるきっかけとなるのは、苦勞して作り上げたエンジンが新型車に載って、公道で見かけるようになったときの達成感や、世間の評判を調べたりして、お褒めの言葉を見かけたときの嬉しさです。それが“もっとよいクルマを”と頑張れる原動力になっています。いずれは自らの企画でエンジンまたは車を世に出してみたいものです。

最後に在校生の方（特に卒業後は就職を考えている方）へメッセージを贈ろうと思います。

正直に言うと、私は入社してしばらくの間、同期は有名大学の修士卒ばかり、職場のメンバーも優秀な人ばかりで自分についていけないのか本当に不安に感じていました。ですがいざやってみると、高専の5年間で得た知識でも充分戦えることに気づきました。学生時代学んだ基礎知識に加え、会社の持っているノウハウや周囲の人の知恵を駆使すれば道は開けるものです。本当に大切なのは素直な心と責任感、向上心です。若いうちから実務経験を積み、若いゆえ多少の失敗にも周囲は寛容なものです。それを最大限活かして、何事も挑戦してみてください。積極的にガンガンやってみるのが大事だと私は思います。

近年、海外のライバルが市場を席捲する業界もあり、日本のものづくりの優位性が薄れてきているように思います。この環境で求められる人材はどんなものなのか、私が就活した時とは明らかに変わってきています。それをしっかり分析してビジョンを持って臨めばきっと成功できると思います。限りある学生生活を有意義に、高専時代の仲間を大切にして、心身とも健康に過ごして下さいね。

（英語も大事ですよ…）



私の携わったクルマのひとつ：2014 LEXUS IS300h
(2.5L L4 ハイブリッド)
良いクルマです！

卒業生だより

エンジニアに求められるもの

情報電子工学科 第29期卒
シェイプウイン株式会社
代表取締役社長 神村 優介



顧問先でのコンサルティングの様子

平成19年に高専を卒業後、株式会社セガトイズに入社しました。3年9ヶ月間勤務した後に独立し、平成23年4月にシェイプウイン株式会社を設立しました。

セガトイズでは、玩具の企画開発やマーケティングを担当し、多くの商品を世に排出しました。現在のシェイプウインでは、その経験を元に顧客企業の商品の販売促進支援をしています。具体的には、商品売るためのホームページ制作や顧客の商品をテレビに取り上げさせるPR、インターネットや雑誌広告の出稿支援などを行っています。

高専ではITエンジニアリングの勉強をしていましたが、就職以来、自分自身でエンジニアリングを行うことはなく、外部のエンジニアに開発業務を依頼することばかりです。セガトイズ時代には、玩具のハード設計やソフト設計をエンジニアに依頼していました。また、現在の会社では、ホームページやWEBシステムの構築をエンジニアに依頼しています。

多くのエンジニアと関わる中で強く感じる点があります。それは、「社会的感覚」の疎いエンジニアが多いという点です。開発をする上での技術力は優れている方ばかりです。しかし、ビジネスにおいて製品やサービスを作るために必要な、「社会的感覚」の疎い方が多いのも事実です。

たとえば、お客様の要求を汲み取るためにはコミュニケーション能力や文章力、語彙力が必要です。使いやすいインターフェースを作るためにはデザインセンスが必要です。売れる商品にするためには情報収集能力や金銭感覚、一般的な知識が必要です。

これは、セガトイズで経験したことです。高専でNHKロボコンに参加していたため、ものづくりにおける技術には自信があり、容易に作れるものだと思っていました。しかし、技術だけでは不十分でした。商品そのものよりも他の多くのことを考えなければ、世に輩出することができなかったのです。

自分で考えた商品企画を作って会議に出したところ、その商品は売れるのか？どうやって売するのか？お客様は満足してくれるのか？企業として採算は合うのか？など商品そのもの以外のことについて上司から多く質問されました。

商品を作る上で設計など商品そのものについて考えるのは、たった3割程度です。残りの7割は、売り方やお客様の利益など商品そのもの以外のことです。この7割を考えるためには社会的感覚が必要であり、社会的感覚が備わったエンジニアはこれから高付加価値を見いだせると思います。

そのような思いから、私は学生時代に社会科や国語をもっと真剣に勉強しておけば良かったと後悔しています。国語や歴史、経済などは、高専生にとってあまりおもしろくない教科かも知れませんが、今よりも少し真剣に授業を聞くだけでも社会に出て必ず役に立ちます。1日1日大切にしながら勉学に励んで下さい！



取引先の社長と撮影

卒業生だより

就職して感じたこと

土木建築工学科 第19期卒
環境建設工学専攻 第3期修了
山口県岩国土木建築事務所
柳井 竜

私は平成9年に土木建築工学科を卒業後、できて間もない専攻科へ進学、その後平成11年に金沢大学大学院に進学し、平成16年4月ようやく山口県に就職しました。

最初の配属は美祢土木事務所の工務課でした。仕事は、土木工事の発注・工事管理・精算でした。学生時代は土木でも理論的なことをやっていたので仕事で使う実務的な土木は正直よくわかりませんでした。でも、これまで何とかなっているし（気づかないところで先輩方になんとかしてもらっていたのでしょうが）、仕事についてわかってきたので不思議です。パチンコが大好きなベテランの班長さんに色々教えてもらいました。ちなみにみなさん、道路など見て、「これってどうやって計画され、施工されているのだろう？」と考えたことがありますか？考えてみるとわからないことだらけだと思います。私も考えたことなんてまるでありませんでした。その後、萩水産事務所に転勤です。萩水産事務所は農林水産部の出先なのでそんなところに転勤とは想像すらしていませんでした（土木建築部所属なので）。仕事はシーマートのある萩漁港など5漁港の工事発注などでした。2事務所目ということで少しは自信を持っていったのですが海の工事は別物でした。とりあえず船の名前からわかりませんし。見島漁港も担当しました。船で萩港から1時間ちょっと、船酔いと戦いでした。そのあと、県庁の河川課事業班に配属となりました。今度は予算要求などまったくこれまでとは違う内容でした。河川課1年目の平成22年は厚狭川が氾濫してその対応に大変でした。河川課にはダム班もあり、ちょうど八ッ場ダムで注目を浴びた時期でしたので、県内のダム事業についてもいろいろ検討されていました。みなさん、ダムは必要とおもいますか？3.11東日本大震災の後には、4月から1ヶ月間、福島県へ派遣されました。原発有り・余震有りの中、福

島県の職員の他、神奈川県・沖縄県から派遣された職員の方々と災害後の被害調査をしました。そして今年、岩国土木建築事務所に配属となりました。個人的には県庁内での事務処理よりは、工事発注で現場に出る方が向いているようです。のびのびやっています。

最近感じていることは、①どうしたら効率的に早くできるか？②どうしたら相手に正しく伝わるか？③どうしたら実現可能か？ということです。

①については、昔は学生で時間があったので、とにかく結果が出るまで時間をかけて自分でしていました。でも、これって今考えるとあんまりよくないんじゃないかなと感じています。なにより締め切りに間に合わないのはできないのと同じなんですよ。早行ってよくないですか？あと、どうしたいかを決めて動かないと、時間ばかりかかって結局どうしようみたいになってしまいます。②もとても難しい問題です。原因は色々あると思います。自分が理解できていないから上手に説明できない。自分が思っているほど相手はそのことについて知識がない。全然違うことを想像しながらお互い話しているなどなど。③は今の職種が、工事など実現させるためにどうするかを考えるのが仕事ですから。いつ予算を確保するのか？どういう計画とするのか？どうやって施工するのか？学生時代は理論的なことを中心にやっていたので、じゃあその理論を現実はどう活かすのかという点はまったく考えたことがありませんでした。

これまで思ったことを好き勝手に書いてきましたがやっぱり大切なのは、やる気と体力です。これがあればなんとかなります。知識はあとから何とでもなるし周りも助けてくれます。でもなかなか大変ですよ。それでは、有意義な学生生活をお送りください。



徳山高専「高城会」『卒業生からのメッセージ』

昨年の高専だより65号から始めました「卒業生からのメッセージ」ですが、今回は県内でも多くの卒業生の方が働いておられる山口県庁の皆さんに、メッセージをお願いしました。多忙の中、原稿の取りまとめを頂いた林正和さん、メッセージを寄せていただいた卒業生のみなさんに心よりお礼申し上げます。

担当：熊野 稔（CA 1期、徳山高専土木建築工学科）
渡辺 勝利（CA 4期、徳山高専土木建築工学科）
杉村 敦彦（IE 5期、徳山高専情報電子工学科）

山口県庁高城会からの メッセージ



林 正和
(CA25期、山口県土木建築部都市計画課)

後輩のみなさんへ私はCA25期の林です。徳山高専卒業後に山口県庁へ土木職で入庁して、今年度で10年目になります。

今の所属先で4箇所目の勤務先となりますが、この10年で行ってきた仕事は、ダムの管理、道路・砂防ダム等の建設工事現場の監督、道路の維持管理など、様々な仕事を経験しました。現在は、土木建築部都市計画課で主に市町が行う下水道事業の指導等を行っています。

山口県庁には私以外にもたくさんの高専卒業生がおり、それぞれの勤務先で活躍されています。実は毎年と言っていいほど徳山高専卒業生が入庁していて、現在では71名も卒業生がいます。かなりの大所帯ではありますが、卒業生同士の交流も盛んで、年に一度、一同に会する同窓会も開催しており、先輩後輩の隔たり無く、人間関係を築けているおかげで、先輩に気軽に相談ができる環境が整っています。もしかしたら5年生のなかには、県庁の内定をもらっている方もおられるかもしれませんが、非常に仕

事がしやすい環境ですので、どうぞご安心ください。

さて、県庁高城会は私が幹事をさせていただいている都合上、高専だよりの原稿依頼をお引き受けした訳ですが、私が県庁の卒業生を代表して後輩の皆さんへメッセージを送るなんて恐れ多いので、後輩の皆さんへの一言を卒業生へ依頼したところ、特に後輩思いの皆さんから非常に参考になるお言葉を頂いております。以下、年功序列でご紹介させていただきます。

有富 昌宏さんより

(CA16期、企業局電気工水課主任)

就職先に「山口県庁」はどうでしょうか。

徳山高専卒は学閥？として県庁内でも最大級の規模ですし、女性陣も最前線で活躍中です。安心してください。

一緒に仕事をやりましょう。

大卒には負けない若さとフットワークの良さを見せてください。待っています。

片山 智也さんより

(CA16期、山口県建設技術センター主任)

ただただ、学生生活を満喫して下さい！

卒業して10数年が経過して気付くと思います、高専のすばらしさに。

私は、まさに実感しています。

気付くのが遅いのでは・・・、と先生方から叱られるかもしれませんが（笑）

吉武 聡子さんより**(CA17期、周南港湾管理事務所主任)**

もう就職してかなり経ちますが、就職して間もない頃は、「学生の頃もっと勉強しておけば良かった」って思うことも結構ありました。

でも、楽しむことも大事なので、しっかり遊んで、それなりに勉強して、学生生活を満喫させてくださいね。

貞光 里枝子さんより**(CA23期、錦川総合開発事務所)**

一昨年、10年前の自分＝高専を卒業して社会に出たて1年目の自分から手紙が届いた。10年後の自分の理想像が書かれていたが、理想と現実は違うなあ～って思わず苦笑……。その中に仕事が辛いだとか当時の落ち込んだ自分の姿も書かれていた。

あらから12年、こうして今も同じ仕事を続けてこられたのは、多くの人との出会いがあり、助けられ、励まされ……。もちろん同級生や高専の先輩・後輩も含め）ここまで踏ん張ってこれたんだなあ～と。

高専生のみなさんも、今の友人、そしてこれから出会う多くの人との繋がりを大切にこれからも

自分の人生を楽しんで下さいね。そして、私もこれからの10年は、人に何か与えていける人になっていきたいなあ～って偉そうに思っています。

吉田 心さんより**(IE25期、下関県税事務所)**

専攻以外のことにも情報のアンテナを高く張るようにしよう。

それがいつか必ず財産になります！

吉永 祐二さんより**(CA27期、長門土木建築事務所)**

友達を大切に。後々困ったときに助けてもらえたり、卒業後バカ話できるのも今の友達だからね～。

残りの高専生活で、もっと広い視野をもって、より多くの友達を見つけてください。

井上 航さんより**(CA31期、岩国土木建築事務所)**

授業を通じて得た力はもちろん、部活や趣味を通じて得た力も社会に出てから大きな支えになってくれます。充実した学校生活を送ってください♪



平成24年度 県庁高城会 記念写真
(原先生、島袋先生にも来ていただきました！)

教員生活を振り返って

情報電子工学科
准教授 守川 和夫



今年で41年間の教員生活の一つの区切りを迎えます。本校教員としての38年を振り返って印象深かった活動を紹介させていただきます。

クラス担任として、進路指導担当である4、5年生の担任4度を始めとして延べ17回受け持ったこととなります。中にはI E 1年生の担任の予定が、年度が始まる直前になって1 - 2の担任なのです。全国高専でも殆ど前例のない混合クラスがスタートした年でした。その後20余年間、1、2年生は混合クラス編成として現在に至っています（数年前から1年生だけとなりました）。

初めて進路指導担当になったのはI E 7期生で、卒業生の一人が隣の教員室の住人（重村先生）のときで、奇しくも今年、一世代経て進路指導担当として奮闘しています。

教育・研究面では、教育用コンピュータの開発をテーマに、研究を通して開発したコンピュータ（CPU）を学生実験の課題に反映できることを目標として研究を進めてきました。

本科4年生のコンピュータシステム実験に先端設計技術を導入するに当たり、教育用コンピュータとして実用されているT e Cの流れを汲み、4年生でも実装できる回路規模で、コンピュータ（計算機）であるからには簡単な処理計算ができる縮小版T e C（名付けてR T e C）の仕様を検討し、設計を試みました。

また、専攻科1年生の情報電子工学総合実験では、ものづくり技術者育成支援事業として、本科で学んできたコンピュータハードウェア関連の知識を実践することを目的としたT a C（16ビット版T e C）の設計に特任講師と連携しながら挑んでみましたが、全体的な作業量の負担を軽減するため、実験手法と課題の解決方法を継承しつつ、難易度と達成時に期待される事柄は大きく変化させず、本科1年次から慣れ親しんでいるT e Cの実装へ変更しました。当初の成果は得られていますが、学生に主体性を持たせた実験の進め方が課題として残っています。

ハードウェア記述言語を合成して回路を設計でき、ボード上のF P G Aに実装して動作検証できる環境が整備され、高専の教育現場で学生自身によってC P Uが設計できる時世に感謝しています。

クラブ活動では、サッカー部の顧問には平成になった年からで、24年間になります。サッカーは素人なので平日の放課後の指導は監督に任せきりですが、サッカー部の管理、運営を中心に、ほとんどの公式試合、練習試合、遠征などに参加し、休日を返上して年間約40日活動しています。

サッカー部は今年も全国高専体育大会兼全国高専サッカー選手権大会に出場でき、通算16回で、全国優勝を1度果たし、4回の全国大会3位の結果を残してきました。全国優勝のとき、決勝戦は中国地区代表同士、しかも前代未聞の同県決戦だったのが強く印象に残っています。

地域連携活動として、産学の技術シーズ・ニーズをマッチングさせるのは難しいものと感じていましたが、（公財）周南地域地場産業振興センターから技術相談が持ち込まれました。

あらゆる製造業の生産設備の中に使用されている製品を加工する際、展開図面を作成するための正確な形状と寸法計算について指導をお願いしたいというもので、グラフィックス処理技術を適用すれば課題は解決できるのではと仮引受けしてみました。1か月くらい課題に挑戦してみたところ先行きが見え、また、活きた課題で卒業研究として打って付けのテーマにもなると本格支援を開始しました。

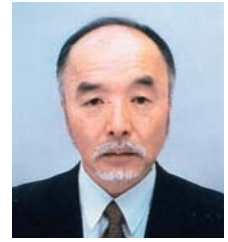
研究室の学生のお蔭もあって、開発システムを加工現場で動作検証しながら現場作業員の要望を取り入れた操作性の良いシステムを提供でき、作業の効率化、省力化に貢献できたと自負しています。

複雑形状の展開図面はグラフィックス処理技術を駆使してもかなり難解な課題ですが、今後も頭の体操を兼ねて支援を続けていくつもりです。

来年度からもリフレッシュして教育活動に再チャレンジしますので引き続きよろしくお願いいたします。

退職にあたって

土木建築工学科
教授 工藤 洋三



私が徳山高専に着任したのは、1978年（昭和53年）、徳山高専の1期生が5年生になった完成年度のときでした。早いもので、あれから35年が過ぎようとしています。現在は、退職を目前にして、長い高専生活でたまった書類や書籍を整理する毎日です。

思い出に残ることはたくさんありますが、高専生活の前半で印象に残っていることの一つに、混合学級1年目の年に担任をしたことです。当初、私は土木建築工学科1年生の担任をすることになっていました。この時の校長は福岡純一郎先生で、年度末になって急に混合学級制度を試行することが決まり、各学科の1年担当予定の先生が混合学級を担当することになったわけです。徳山高専にとっても私にとっても初めての経験で、週1回は担任の連絡会議を開いて、直面するさまざまな問題に対応しました。私にとって、土木建築工学科だけでなく、学科を超えて、徳山高専に入学したばかりの学生が、どの程度の実力があり、どんなことを考えているのかを知る良い機会になりました。

混合学級の担任をした同じ年の夏休みに、私は初めて海外旅行をしました。36歳の時ですから、高専生が研修旅行で海外に行く現在の状態からは想像できないかもしれません。カナダで開催された国際会議に参加する機会に、アメリカの大学を訪問する計画を立て、アメリカ・カナダに3週間滞在しました。旅行中にアメリカからクラスの学生にエアメールを送り、カナダの滞在先のホテルの宛先を知らせて返信を求めました。学会が終了する頃に、ホテルの部屋の入口のところに日本からのエアメールが30通近く届きました。おみやげを求める内容も多かったのですが、将来の夢などが書かれているものもあり、楽しく読み返しました。混合学級担任の経験を通じて、徳山高専は毎年優秀な学生を受け入れており、在学中に学生の能力をさらに伸ばして社会に送り出す責任があ

るということを強く感じました。

高専生活後半の思いでの一つに学校紹介ビデオの制作があります。アナログ時代のビデオ編集を経験した私にとって、デジタルビデオ編集の登場は画期的なものでした。最初は土木建築工学科の紹介ビデオを作成していましたが、そのうち学校紹介ビデオになりました。

ビデオ編集のコンセプトや方法はさまざまですが、共通しているのは、素材がなければ編集できないということです。そのために、常日頃からアンテナを張っておいて、学校行事や各種コンテストにはカメラを携行して取材する必要がありました。何度か授業中にも取材に出かけ、カメラを向けられた学生が「違和感だらけ」の状態でも録画したこともありました。

一番取材回数が多かったのは、アイデア対決ロボットコンテストと高専大会、それも女子バスケットボール部だったと思います。録画中はほとんどビデオカメラのモニター画面を見つめています。同時に徳山高専の応援をしているわけです。全国大会で優勝しない限り、必ず、どこかで敗れてガッカリする瞬間が訪れます。優勝したときの学生の姿もすばらしいけれども、敗北したときや失敗したときの表情は、何かその学生の将来の成長を示唆しているようで貴重な映像となりました。

2011年の同時多発テロの影響で土木建築工学科の研修旅行が中止になり、その代わりに5年生の研修旅行が実現してその引率をしたこと、「徳山高専夢広場」の責任者となり、地域の人たちと交流できたことも良い思い出となりました。

徳山高専が今後ますます発展することを願っています。お世話になりました。

新 任 者 紹 介



機械電気工学科 准教授

ふくだ あきら
福田 明

●ご出身はどちらですか？

山口県下関市豊北町です。本校の卒業生で、平成6年に卒業しました。

●本校にこられる前はどちらに？

本校を卒業した後に豊橋技術科学大学に編入学し、同大学の修士課程を修了して企業に就職しました。就職したのは株式会社荏原製作所という会社で、本社は東京都大田区にあります。私は就職してから本校に来るまで、神奈川県にある同社の藤沢事業所に勤めていました。藤沢は鵜沼海岸（湘南）や江の島が有名です。

●徳山高専の印象は？

卒業してから20年近く経ちますが、当時と比べて建物が増え、内装が格段に綺麗になっていてびっくりしました。また、各教室にプロジェクターが完備されていたり、グラウンドに照明が設置されていたりして、設備面の充実さにも驚きました。そのお蔭でしょうか、運動部がとて強くなっていることに感心しました。

●ご趣味はなんですか？

特に趣味はありませんが、休日に娘と一緒に簡単な工作をするのが楽しみです。

●今後の抱負をお聞かせください。

まずは教員の仕事に慣れることです。今は授業にほぼ全力投球ですが、今後は研究や部活の顧問など、他の仕事を早く軌道に乗せたいと考えています。将来的には、日本を支え世界に通用する技術者の育成に貢献したいと考えています。未熟者ですが、宜しくお願いいたします。



土木建築工学科 助教

ひらぐり やすひろ
平栗 靖浩

●ご出身はどちらですか？

生まれは三重県、育ちは大阪府です。

●本校にこられる前はどちらに？

九州大学大学院人間環境学研究院の建築音響研究室で6年間、研究員をしていました。

●徳山高専の印象は？

礼儀正しく、素直、まじめ、活発な学生が多く、好感を持っています。クラブ活動など、勉強以外に対しても熱心だと思います。ただ、自身の将来像に対するモチベーションが低い学生が多く見受けられるように思います。

●ご趣味はなんですか？

旅行とキャンプです。

●今後の抱負をお聞かせください。

私自身まだまだ半人前ですが、卒業後に一人でも多く、徳山高専に行って良かったと思えるような教育・研究をしていきたいです。





教育研究支援センター技術職員

くろだ ひろあき
黒田 浩晟

●ご出身はどちらですか？

出身は旧徳山市ですが、愛媛、鹿児島に住んでいたこともあります。

●本校にこられる前はどちらに？

ここ徳山高専本科の学生でした。(ME34期卒)

●徳山高専の印象は？

やはり母校という気持ちが強く、朝の高専坂も“出勤”というより“登校”気分になることがあります。

●ご趣味はなんですか？

暇があれば、ピアノかギターをぼろぼろと弾いています。

学生時代にしていたバドミントンも時々していますが、既に体力の衰えを感じているところです。

●今後の抱負をお聞かせください。

社会人としても技術面でも勉強の日々です。微力ではありますが、皆さんのサポートができるよう尽力していきたいと思えます。

実習以外で学生の皆さんと会うことはなかなか無いかもしれませんが、見慣れない作業服を着た学生らしき人を廊下で見かけたら、恐らく私ですので気軽に声をかけてください。



総務課会計係

あいもと なおこ
相本 直子

●ご出身はどちらですか？

周南市のお隣、下松市です。

●本校にこられる前はどちらに？

宇部高専総務課人事係にて勤務しておりました。

●徳山高専の印象は？

緑に囲まれ、また海まで一望できとてもきれいな学校という印象を受けました。

●ご趣味はなんですか？

インテリアショップに行くことです。

●今後の抱負をお聞かせください。

10月から会計係となり、まだまだ勉強不足なところもありますが、頑張っまいりますのでよろしく願いいたします。



新 任 者 紹 介



総務課契約係

に っ た ま さ と
新 田 将 人

●ご出身はどちらですか？

広島県広島市です。

●本校にこられる前はどちらに？

平成24年3月まで岡山で大学生をしながら、それから約半年ほど広島で予備校に通っていました。

●徳山高専の印象は？

初めて徳山高専を訪れたとき、設備がとても整っているという印象を受けました。また自然も豊かでのびのびと勉学や仕事に取り組みやすい環境だと思いました。

●ご趣味はなんですか？

全然上手ではないのですが、主に硬式テニス、フットサルなどで体を動かすことや、友達と一緒にごはんを食べに行くことです。

●今後の抱負をお聞かせください。

最初はわからないことばかりで皆さんに頼ってしまい、迷惑をかけてしまうことが多々あると思いますが、スポンジになったつもりでどんどん吸収していきますので、色々ご指導よろしく願います。



学生課教務係

ちやくもと まさし
着 本 祐 史

●ご出身はどちらですか？

山口県宇部市の生まれです。

高校卒業まで宇部市、大学4年間山口市、そして現在は周南市と県内を西から東に横断して参りました。

●本校にこられる前はどちらに？

大学生として山口の大学に通って参りました。

●徳山高専の印象は？

元気にあいさつをしてくれる、明るくしっかりした学生が多いという印象を受けました。また、高専から見渡せる景色はとても綺麗で、野球場やテニスコートには照明設備があるなど施設も整っており、非常に良い環境であると感じました。

●ご趣味はなんですか？

- ・ソフトテニス
- ・スポーツ観戦
- ・映画鑑賞 など

最近、趣味がインドア傾向にあるので、今後はアウトドアな趣味を増やしていきたいです。

●今後の抱負をお聞かせください。

私が徳山高専の職員として勤め始め早1年が過ぎますが、まだまだ勉強不足を感じます。今後も少しでも学生の力になれるよう、また、徳山高専の発展に寄与できるように、何事にも一生懸命努めて参りますので、よろしくお願いいたします。



学生課学生係

なかや ゆうと
中矢 雄人

●ご出身はどちらですか？

愛媛県松山市です。

●本校にこられる前はどちらに？

宇部市にあります山口大学医学部で働いており、契約の業務に携わっておりました。

●徳山高専の印象は？

一般の高校とはギャップが多く、正直なところ最初はとまどいましたが、まじめな学生が多く、挨拶をする学生も多いので、良い印象を持っております。

●ご趣味はなんですか？

旅行（国内旅行）
山登り
テニス です。

●今後の抱負をお聞かせください。

学生系の業務の経験がなく、先生方や職員の皆様にご協力していただくことが多々あると思いますが、学生支援に支障をきたすことが絶対にならないよう努力していきます。



図書館時間外開館 補助員の感想

■機械電気工学科5年 木下 優

私は図書館補助員を通して、図書館の素晴らしさを知りました。徳山高専の図書館は本や雑誌、DVDなど、非常に物が充実していて私の中で誇れる場所です。また、私は普段やるべき仕事の他に、蔵書検索方法の説明書の作成などを行いました。その説明書を利用している人を目にした時は、とても嬉しくやりがいを感じました。一年間お世話になりました。

■機械電気工学科5年 兼俊 洋介

私は、この図書館の補助員の仕事で2つのことを学びました。1つは、作業効率を考えることです。2時間という短い時間で仕事を終わらせるのが大変で、作業順序を何度も見直しました。2つ目は、仕事を自分で見つける能力です。慣れてくると時間が余るので、周囲を見まわして仕事を探すなど、将来役に立つ能力を学ぶことができました。

■土木建築工学科5年 江浪 夏美

図書館補助員として週2日間の放課後を図書館で過ごし、その業務内容を通して、図書1つ1つがちゃんと大切に管理されて、様々な人と共有しているのだと、実感することが出来ました。

図書の購入希望などさまざまな要望も意外と受け入れられたりするので、みなさんもどんどん尋ねて図書館の機能を有効に使って頂けたらなと思っています！

■土木建築工学科5年 桐田 朋枝

私は図書館補助員として働くまで、“図書館は試験勉強のための場所”という認識しかありませんでした。しかし、本の返却や整理をしているうちに、専門書や興味を引く本がたくさんあることが分かりました。今年は「ことりっぷ」などの旅行ガイドがたくさん入荷したので、今後は試験勉強以外にも図書館を活用していきたいと思いました。

■土木建築工学科5年 田口 舞

図書館補助員の勤務は、本の整理や掃除など環境の整備が主です。勤務の間、どうしたらよりよい環境をつくれるか考えていくうちに、「慮る」という能力が高まったように感じました。これから卒業し、社会に出てからも、この一年間で培った「慮る」という能力を生かせるように努力していきたいです。

■土木建築工学科5年 長廣 修平

皆さんにとって図書館はどんな場所でしょうか。私にとって図書館とは、「静かに一つのことに集中できる場所」です。私は仕事をするに当たって、前述の環境を守ることを心掛けてきました。しかし、大きな声でおしゃべりをする人や、ルールを守らない人がまだまだ見られるのが現状です。図書館を利用するとき、ほんの少しだけ意識してみませんか。



編集後記

学生のみなさん、保護者のみなさん、卒業生のみなさん、そして徳山高専を支えていただいているみなさん。「徳山高専だより」No.66をお届けします。徳山高専の動き、学生、卒業生の活躍をご高覧ください。体育大会、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、デザインコンペティション、各種競技会、コンテストへの学生の参加とその素晴らしい成果については枚挙にいとまがありませんが、本稿ではその一端を紹介させていただきました。表紙のロゴにお気づきでしょうか。高専制度創設50周年のものです。昨年は高専制度発足50周年の記念すべき年であり、さまざまな行事が行われました。10月末に東京で行われました記念式典に参加させていただきましたが、卒業生の活躍を見聞きし、高専に対する各方面からの評価と期待の大きさに感激し、教育研究に一層の努力を誓ったところです。本校は昭和49年発足で来年の6月7日が創立40周年の区切りの年になります。様々な催しを通じて各方面への感謝の思いをお伝えし、さらなる飛躍を目指してゆきます。今後とも徳山高専の活動にご理解ご協力を賜りますようお願いいたします。(T.H.)



本校の「設計情報工学」プログラムは、日本技術者教育認定機構（JABEE）からの認定を受けています。



COLLEGE OF TECHNOLOGY
ACCREDITED
Mar. 2007

本校は、平成18年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構の認証評価を受け、認証評価基準を満たしていると認定されました。

徳山工業高等専門学校 Tokuyama College of Technology

徳山高専だより No.66

発行 総合企画室
所在地 〒745-8585 山口県周南市学園台
TEL (0834) 29-6200 (代表)
FAX (0834) 28-7605 (代表)
印刷 大村印刷(株)
発行日 2013年(平成25年)3月8日
URL <http://www.tokuyama.ac.jp/>

Tokuyama College of Technology

